

## 碑文

表  
災害復旧記念碑

長野県知事

吉村午良書

碑文

昭和五十六年八月二十三日未明、台風十五号の襲来

と共に山岳地帯の集中豪雨により仁礼山ロットの沢

上流附近の土砂崩壊が土石流となり宇原川沿岸の沢

巨岩立木悉く席巻し泥濘濁流となり、恰も小山瞬

動、暗空を压して一気に下流を襲い人々命諸共一

瞬にして呑み込み十名の尊い生命を奪いさる。加え

て仙仁川これ又、濁流氾濫、合して鮎川沿岸を荒土

と化し、家屋流失四十戸損壊十七戸、田畠の流失冠

水十一町歩余、山林の流失三十町歩余の大きな被害

を受け、正に言語に絶する大惨事となる。これこそ

凄絶無惨極まりない痛恨事にして虚空聴見憤怒の思

いこの上もなく只々自然の猛威のなす業の恐ろしさ

は全く言の外とすべきである。仁礼地域に於つて、

このような事は未曾有の事であり、かつてない大災

害を被つたのである。

このようなとき、消防団の人命救助不明者の捜索活

動住民の復旧への努力はめまぐるしいものがあつた。

この間全国から多くの物心両面の温い援助を頂いた

ものである。この復旧に当つては激甚災害の指定を

受け国県及び市の援助のもとに九十億円余の巨費

を投じ復旧工事に着手され三カ年の年月を費して

以前に勝る河川或は農地の復旧事業が完了した

のである。

ここに、本災害に於て特に銘記すべきことは、殉難

犠牲者となられた尊い御靈の安らかに永眠されんこ

とを念じ慰靈すると共に、再びかかる災害のなき事を

を念願し長く後世に伝承する意をもつて災害現場に

この碑を建立し永遠に記念するものである。

昭和五十八年十一月



被災状況



被災状況



### ■ 交通案内

○長野電鉄長野線須坂駅下車 長野電鉄バス仙仁行き タカツバ停留所下車  
徒歩5分

○上信越自動車道須坂長野東インターチェンジから  
主要地方道長野須坂インター線 国道406号を菅平方面へ約8km  
車で約10分

### ■ 所在地

長野県須坂市仁礼地籍

### ■ 水系名及び溪流名

信濃川水系鮎川(宇原川)

### ■ 問い合わせ先

長野県砂防課 電話0262-32-0111

長野県須坂建設事務所 電話0262-45-1670



# 長崎大水害碑

◆長崎大水害◆

長崎大水害では長崎市界町日見地区で三十六名の人命が失われ、罹災した世帯は千四十四戸にのぼった。その被害は甚大であった。長崎市役所日見支所に災害対策本部が設置され、各自治会長が中心となり、関係諸団体の協力のもと不眠不休の救援、復旧活動が二ヵ月にわたって続けられた。これらの犠牲者の冥福を祈り、災禍を繰り返さない願いを込めて、この石碑は建立されたものである。



七・二三

長崎大水害碑

日見地区連合自治会

昭和五十八年七月建立

午後五時頃より降り始めた雨は一日降水量四百四十八ミリ、時間あたり百八十七ミリ、わが国観測史上驚異的な降水量を記録した。

午後八時過ぎ各地で大規模な山崩れが発生河川は、はんらんし死亡者三十六人、り災世帯千四十四を始め農林水産等、甚大な被害を被りかつてない大惨事となつた。長崎市役所日見支所に災害対策本部を設置、各自治会会长が中心となり区内の諸団体機関県内外から不眠不休の献身的な死傷者の救出、救援、復旧活動が約二ヶ月続いた



芒塚川被災状況

現況

## ▶ 交通案内

◎JR長崎本線肥前古賀駅下車 松原バス停より長崎水族館

網場方面行き 水族館前バス停下車 徒歩1分

JR長崎駅下車 長崎駅前東口バス停より長崎水族館

網場方面行き 水族館前バス停下車 徒歩1分

◎長崎自動車道多良見インターチェンジより8km 車で約10分

## ▶ 所在地

長崎県長崎市界町2-1-19

## ▶ 水系名及び溪流名

日見川

## ▶ 問い合わせ先

長崎県砂防課 電話0958-20-4788



◆長崎大水害◆

7・23

# 水害記念碑

昭和五十七年（一九八一年）七月二十三日に長崎県を襲った集中豪雨は、降り始めから翌二十四日までの総雨量五百七十二ミリという記録的な豪雨となつた。この豪雨で発生した水害で、長崎県では死者・行方不明者一百九十九人という大被害をだした。

東町侍石でも、連日の豪雨によって、緩みきった林地が崩壊し土石流となつて、家屋、田畠を覆いつくし、五名の命を奪つたのである。

この巨大な記念石も人家の裏から道路中央まで押し流されたもので、土石流の勢いの恐ろしさを思い知らされる。悲惨な災害を永久に忘れないために、現在の位置に移動し、犠牲者の冥福を祈りつつ、据えられたものである。



7・23水害記念碑

昭和五十七年七月月中旬より長崎地方に停滞した梅雨前線による降雨は、二十日迄に五九八ミリに達していた、同月二十三日日没と共に猛烈な豪雨となり、七時二十分より八時二十分までの降雨量は、一一七・五ミリと言つ史上最高を記録した。

連日の降雨により緩みきった林地は、土石の奔流となつて崩れ落ち家屋、田畠は勿論五名の尊い人命をも奪い去つたこの巨大な記念石も本田和助氏宅の裏より土石流とともに道路の中央に流れ落ちたものを、宗組のご援助により現在地に移動、存地することとした、この石によつても、当時の凄惨さを窺がい知ることがができる。

この悲惨を永久に忘れない爲に、土地所有者吉田耕逸氏のご厚意によりこの地にこの碑を建つ

なお、犠牲になられたのは次の方々である

本田キミエ59

同美津代23

同由紀子0

唐一二七〇

流出戸数六戸

その他損害甚大

昭和五十八年十二月建立



## ▶交通案内

◎JR長崎本線肥前古賀駅下車 松原バス停より戸石町  
飯盛町方面行きバスで下戸石バス停下車 徒歩5分

◎長崎自動車道多良見インターチェンジより6km 車で約6分

## ▶所在地

長崎県長崎市東町

## ▶水系名及び渓流名

八郎川水系侍石川

## ▶問い合わせ先

長崎県砂防課 電話0958-20-4788



# ◆長崎大水害◆ 水害記念塔

薬師堂記念塔は、昭和五十七年（一九八二年）七月二十三日の長崎大水害時の土石流による飯盛町の十五名の被害者の冥福を祈り、災禍が再びないことを願ったものである。災害の起こうたこの日、夕刻から降りだした雨は時間雨量百七十三ミリという集中豪雨になり、河川が氾濫し、飯盛町の補伽地区は、谷間にこだまする轟音とともに山津波に襲われた。地獄のような一夜が明けて村人が見た光景は無残きわまりないものだった。十八戸中九戸が流失、九戸が半壊、土石流により十五名が行方不明となつていた。ある者は土砂の中、ある者は河川から、ある者は七日目にして大門湾の海中から発見されたのであった。災害により流失した薬師堂の如來像は、幸いにして土砂の中から発掘され再び安置され、その側に記念塔は建立されたのである。



## 碑文

昭和五十七年七月二十三日

薬師堂記念塔の建立

水害記念塔

昭和五十七年（一九八二）七月二十三日夕刻より  
降りだした雨が、有史以来の集中豪雨となり、時間  
雨量百七十三ミリを記録、みるみる内に河川は大  
氾濫、谷間にこだまする山津波の轟音、崩壊する山  
山一瞬にして恐怖の一晩が始まった。電気電話は  
遮断され、助けを求めて絶叫する雄叫び遠く土砂  
と共に下流へと消えて行く。救助する術はなく生  
地獄の一晩となる。只管部落住民の安否を祈るの  
み筆舌に表わすことが出来ない。一夜明けて見  
ると美しかったふるさとは土砂流木で住家の跡形  
もなく、十八戸中九戸が流失九戸が半壊土砂に埋  
没死者十五人の大惨事となつた。翌二十四日夜明  
けと共に町内外の消防団、自衛隊の出動で、生存  
者は全員飯盛町民センターに避難するも、道な  
き道に丸太の橋を架け、土砂の河川を隊員に手を  
引かれ、或いは背負われ生まれ育つたふるさとを脱  
出した又、一瞬にして水魔の犠牲となられた十五  
名の遺体の搜索も始まつた。埋没した土砂の中よ  
り、或は河川から大門湾の海中より、見るも痛ま  
しい姿で七日にして全員西明寺の本堂に悲しい遺  
体となつて安置され、只管故人の面影をしのび号泣  
するのみであつた。生残つた者は全国から寄せられ  
た励ましの言葉や淨財に支えられ、悲しみの中よ  
りふるさとの復興に立上がつた。

何百年と祭つがれた薬師寺も流失。幸にして如  
来像は土砂中より発掘され、復旧して新築した本  
堂に安置。尊い犠牲となられた十五名の水害記念  
塔を建立して後世に伝え、再び災禍の無き事を祈  
念するものである。

昭和六十一年九月十二日

補伽組一同 文 大久保忠敬  
書 御塚大舟



土石流下状況



崩壊源部からの流下状況



### ▶ 交通案内

○JR諫早駅前のバスターミナルより江ノ浦行きのバスで約25分  
終点江ノ浦で下車 長崎行きのバスに乗替えて補伽バス停で降りる  
徒歩約10分

### ▶ 所在地

長崎県北高来郡飯盛町補伽地区

### ▶ 水系名及び渓流名

田結川水系補伽川

### ▶ 問い合わせ先

長崎県砂防課 電話0958-20-4788





◆124◆

長崎県

◎建立者／矢上地区自治会・長崎大水害碑建立委員会  
◎建立年／平成四年七月二十三日

# ◆長崎大水害◆ 長崎大水害碑

昭和五十七年七月二十三日、長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線は、降り始めから翌二十四日までに総雨量五百七十二ミリ(長崎海洋気象台観測)の降雨を記録した。この豪雨によって発生した大水害は、死者・行方不明者三百九十九名という空前の大惨事をもたらした。

山間部の各地では鉄砲水が噴出し、土石流が発生。矢上地区を流れる八郎川、中尾川はおびただしい流木と土砂で埋めつくされた。これによって八郎川が氾濫し、死者三十四名、家屋の全半壊百六十三戸、床上浸水八百十四戸などの甚大な被害をこうむった。矢上地区自治会はこの大惨事を後世に伝えるために、災害十周年にあたる平成四年七月二十三日にこの石碑を建立したものである。

## 碑文

表  
面

昭和五七・七・二三

長崎大水害碑

小峰雲骨書

碑文

あの日長崎付近に梅雨前線が停滞し、湿舌現象により午後五時過ぎ雷を伴う強風とバケツの水をひっくりかえしたような集中豪雨がおそった。東長崎地区はこの豪雨の中心域となり七時間に五〇〇ミリというわが国観測史上未曾有の雨量を記録した。

午後八時過ぎ山間部の各地で鉄砲水が噴出し土石流は山肌をけずり、巨岩を転がし、多くの家を一瞬のうちにのみこんだ。八郎川・中尾川などおびただしい流木・車輪・土石で埋めつくされあふれ出た濁流は東長崎支所付近で水位が二五〇センチに達した。国道三四号線は流木・車輪・土石で埋めつくされあふれ出た濁流は東長崎支所付近で水位が二五〇センチに達した。国道三四号線は流木・車輪・土石で埋めつくされあふれ出た濁流は東長崎支所付近で水位が二五〇センチに達した。矢上地区の死者三四名、家屋の全半壊一六三戸、床上浸水八一四戸、農林・水産等も甚大な被害を受け、かつてない大惨事となつた。十周年にあたり矢上地区自治会の発起により碑を建立し後世に伝えるものである。

平成四年七月二十三日

発起人

矢上地区自治会

長崎大水害碑建立委員会



### ▶ 交通案内

◎JR長崎本線肥前古賀駅下車 松原バス停より長崎方面行きバス馬場バス停下車 徒歩約2分

◎長崎自動車道多良見インターチェンジより5km 車で約5分

### ▶ 所在地

長崎県長崎市矢上町571番地

### ▶ 水系名及び渓流名

八郎川

### ▶ 問い合わせ先

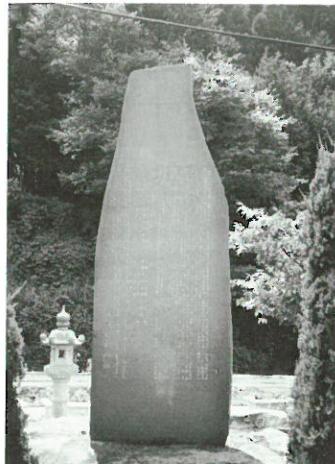
長崎県砂防課 電話0958-20-4788



# 慰靈並災害復興之碑

慰靈並災害復興之碑

小糸川水害被災者



昭和五十七年八月二日未明、台風十号は推定時間雨量約五十ミリの集中豪雨を浅川地区にもたらし、上流山地の崩壊土砂や巨石流木による土石流が発生した。土石流は道路、耕地、人家を襲い、道路は全線にわたって決壊崩落がおこって分断され、避難中の女性二名の尊い命が奪われた。

さらに翌三日には追い打ち豪雨が来襲し、住民の恐怖は極限に達したが、住民は出役による自力での復興活動を開始した。一方、行政は激甚災害の指定を受け、応急対策とともに二ヵ年継続計画による災害復旧計画が策定され、浅川本線の改良が行われた。これらの復旧工事には十七億七千万円余が投入され、ほぼ復旧のなった五十九年に全住民の総意に基づいて碑を建立した。

## 碑文

表  
裏  
面

慰靈並災害復興之碑

大月市長 小俣治男書

裏  
面

昭和五十七年八月二日未明、台風十号は推定時雨量約五十ミリの集中豪雨を浅川にもたらし、西川及び家能沢上流の山地を崩壊せしめ、巨石立木を席捲して土石流となり加速して下流の人家を襲い、避難中の黒部利子、黒部さら枝兩女子の尊い生命を奪い去つた。黎明と共にこの惨事は伝えられ、平部落に集合した村人は萬目荒廢一変せる荒土に立つて茫然自失したが、烈日の下に挫折感を自ら鞭打ち、暗涙をふるつて遺体を捜索救出安置した。嗚呼この里に生まれこの里に嫁して幾十星霜、誰人かこの不幸を予測し得たであろうか。この十号台風の大降雨は土砂流となって浅川に注ぎ、道路耕地人家を浸食流させしめ、道祖神橋大橋は砂中に埋没して橋影を留めなかつた。道路は全線に亘つて各所に決壊崩落を来し分断され、僅かに徒步に依つて交通は維持された。飲料水も水源殆ど流失し、電力通信も全く途絶した逐次部落毎の被害も判明し、全壊家屋五世帯、半壊一世帯、床上浸水十世帯、床下浸水は全世帯の大半に及び、死亡二名、負傷者多数の内入院三名、避難世帯は三十世帯を算し、車輛も大小十五台が流失し、上秋期の初秋蚕二百グラムが大量投棄のやむなきに至つた。翌二日は不運の追い打豪雨來襲し白昼洪水の跳梁を眼前にした住民の恐怖は極度に達した。此により区長鈴木紀行氏は、全部落民に檄し住民の自力による復興を強く要望し、以後全住民の出役に依る組織的行動が開始された。大月市は災害対策本部を設置し、現地加藤収入役宅を前線対策基地に指定消防署職員や市幹部を常駐せしめ、數日を出ずして道路電力通信等公共施設の応急対策工事を完了し、一応住民の愁眉は開かれた。この間住民の五日間の出役作業や、第五分団消防の延九百十二名の来援により、移住地環境整備も進み、特に地元第十部消防の活躍は後日建設大臣表彰の栄に輝いた。一方行政の対応により激甚災害の指定を受け、応急対策と共に三ヶ月継続計画による災害復旧が策定され、浅川川本流は大半道路の湾曲蛇行を直線的に改良設計され、画期的復旧工事が緒に就くに至つた。浅川地域全般の復旧工事費の内容は概ね左の如くである。

### 一 道路関係災害復旧工事費 二億一千二百三十万円

一 河川関係災害復旧工事費	十億八千五百十萬円
一 堤堤工事費	十三基 三億六千三百二十万円
一 農用地復旧工事費	五百九十万円
合計	十七億七千六百四十万円

此の大災害に対し、右の如く巨額の復旧工事費が投入され、工事は順調に進捗し曾て荒廃した住民の心に、今ふるさとは確実に恢復しつつあり、復旧工事の大事業もその工を終えようとしている。受難被災三年目を迎え、この秋に当たり思いを往時に馳せ改めて犠牲者の靈を慰め、災害時に寄せられた多数の方々の御厚情を謝し、災害の概況を誌し復興の経過を後世に伝えるが為、全住民の総意に基づき碑を建立するものである。合掌。

昭和五十九年十二月二日

加藤光宏 撰文

幡野美文 謹書



▶ 交通案内

◎JR中央線大月駅下車 富士急バス浅川行き

公民館前バス停下車徒歩1分

▶ 所在地

山梨県大月市七保町浅川地内

▶ 水系名及び溪流名

相模川水系浅川

▶問い合わせ先

山梨県砂防課 電話0552-23-1711



◆山陰豪雨災害◆

# 漸に杜ぎ、 崩に防ぐの碑

昭和五十八年七月二十三日、島根県・浜田市や那賀郡を梅雨前線による豪雨が襲い、各所で山崩れなどが起つて多くの犠牲者が出て「山陰豪雨災害」。

雨は災害の前から断続的に降り続き、連続雨量は五百二十一・五ミリ、浜田観測所の観測では一時間あたり最大雨量九十一ミリを記録した。この災害による死者・行方不明者は百七名で、のうちの八割以上が土砂災害の犠牲となつた。そして中場地区でも山が崩れ、死者十五名、全壊家屋八戸の大灾害を受けたのである。

この災害に対し、地すべり激甚災害対策特別緊急事業により同 年十一月から工事に着手し、昭和六十二年三月に完成した。

石碑は本事業の竣工記念として建立されたものである。





碑文



被災状況

昭和58年7月石見災害

中場地すべり対策事業竣工記念

漸に杜ぎ、前に防ぐ(ぜんにふさぎ、ぼうにふせぐ)

(危険なことに対しては常に注意をはらい、その兆があれば速やかに手当をすべし)

昭和62年3月

島根県知事 恒松制治

(撰碑は島根県土木部砂防課長 三宅 清: 当時)



現況



▶交通案内

◎JR山陰本線周布駅下車 車で約5分

◎国道9号より県道美川周布線へ入り約5分

▶所在地

島根県浜田市穂出町地内

▶水系名及び溪流名

周布川水系

▶問い合わせ先

島根県砂防課 電話0852-22-5225



## 清流の鐘塔

◆山陰豪雨災害◆

昭和五十八年七月二十二日夜から二十三日早朝にかけて集中豪雨が島根県西部の三隅町を襲った。総雨量六百五十ミリに達する雨は堤防を決壊し、土石流が人家や田畠に襲いかかり、その被害は死者二十三名、被害総額七百億円（公共施設）にものぼる壊滅的なものであった。当時、町民は「わがふるさとは壊滅せり」と悲嘆にくれたという。

その後も昭和六十年に再び災害を受けるなど、たび重なる豪雨での災害を受けながらも、国や県、地元町民による災害復旧活動が続けられた。そして、「わがふるさと甦り」と三隅町の復興がなったことを記念して、平成元年十一月、三隅中央公園入口に「清流の鐘塔」が建立された。なお、この石碑は道路、河川、土砂災害などすべての復旧対策に対する記念碑である。



## 「清流の鐘塔」碣文

已んぬるかな！わが町は没せり。わが三隅町は壊滅せり。昭和五十八年七月二十五日、総雨量六五〇ミリに垂んどす間断なき豪雨は遂に堤防を決壊せり。山々を抉りぬ。氾濫せる濁流は家々を押し流し、道路を寸断し、橋梁を流出せり。大音響とともに来襲せる膨大なる土石流は、或いは人家を呑み、或いは田畠を埋没し、数多の施設を尽く壊滅せり。空前絶後とはかの惨状をいわんか、被害総額はのみにてだに七百億円に及べり。

なかんずく悲痛感慨なりしは永遠の訣れを告げたるわが郷党の数、三十三柱の多きを数えたるにして、ここは筆舌に尽くし得ぬ悲しみの極みなりける。

已んぬるかな！わが町は没せり。わがふることは壊滅せり。

されどわが三隅町民は強かりき。屈せざりき。国の援けをよりどころとし、県の輔いを支えとなして、我々は、起き上りき。全国大方の地より寄せられたる熱き励ましを耳に刻み、数々の救援を目の当たりにして、我々は奮、起ちき。後に遭遇せし二度の災害も何するものかは、我々は挫げざりき。勇気をもつて励みたれり。災害に強き町づくりを合言葉となし、我々は復興を目指しぬ。

我々は今ここに宣言する。三隅町は復活せり。わがふるさとは甦えり。

記念すべき今日を迎えて我々はこの地に「清流の鐘塔」を建立す。願わくはこの鐘の音が逝きし郷党的鎮魂歌とならんことを。さらにまた願わくは、この鐘が清き川風に乗りて町内津々浦々に響き渡り、再生三隅町を謳う序曲を奏でんことを。わがふるさとは甦えり。三隅町はここに復活せり。

平成元年十一月二日

三隅町長 三賀森 勝



▶ 交通案内

◎JR山陰本線美保三隅駅下車タクシーで約5分

国道9号に「三隅中央公園」の案内板あり 約5分

▶ 所在地

島根県那賀郡三隅町地内 三隅中央公園内

▶ 水系名及び渓流名

三隅川水系

▶問い合わせ先

島根県砂防課 電話0852-22-5225



# 災害を忘れぬ石

昭和五十八年九月二十八日、秋雨前線により一週間以上降り続いた雨は、折りからの台風十号と重なり豪雨となつた。

長野県木曽郡三岳村、沢渡川の源流付近で山腹の崩壊が発生し、川がせき止められた。この天然ダムはやがて決壊、土石流となつて流下し各河川の増水と相まって周辺に氾濫した。この土石流は永井野地区の耕地で氾濫し、収穫間際の農作物を、土砂で埋めつくしてしまつたのである。

この災害に対し、復旧対策が実施され、その完了を記念して昭和六十二年三月、石碑が建立された。「災害は忘れた頃にやってくる」の名言を思い起こし、防災の一助に永く語り伝えるためである。

災害を忘れぬ石



1983.9.28  
災害を忘れぬ石



- ▶ 交通案内
- 国道19号元橋交差点より15km 車で約30分
- ▶ 所在地
- 長野県木曽郡三岳村永井野地先
- ▶ 水系名及び溪流名
- 木曽川水系西野川支川沢頭川
- ▶ 問い合わせ先
- 長野県木曾建設事務所 電話0264-24-2211



# 座禅石



昭和五十八年九月二十八日に兵庫県氷上郡山南町を襲った集中豪雨は、町内河川の護岸の崩壊や橋の落下などの甚大な被害を各所で発生させた。また、山からは土石流が流下し、村人が座禅石と呼んで崇拜してきた奇石のある青田初原の谷も土砂が異常堆積し、座禅石は埋没寸前の状態となってしまった。

その後、復旧事業として青田初原川上流に緊急砂防工事が行われ、堰堤が設置された。しかし鎌倉時代からのいわれがある座禅石は埋没状態であったため、青田部落ではその移転復興を計画。昭和六十二年十一月、砂防堰堤の上流に約二百メートルほど移転させ、石碑と共に建立したものである。

## 座禅石の由来

昭和五十八年九月二十八日にこの地を襲つた集中豪雨は古今未會有の災害を齋らしたのである。

初原谷の奥には村人の崇拜する奇岩がある山紫水明の渓谷に偉容を誇る奇岩も自然の災害には抗し難く埋没寸前の憂き目を見たのである。部落民は深くこれを憂い移築復興を計り約二百米を移転し建立したものである。

抑々座禅石の起源は遠く足利三代將軍義満の頃鎌倉円覺寺の開山仏光国師の法嗣國嗣を嗣いだ特峯妙奇禪師が中国の修業を終え帰朝後太田横山に緑羅庵を営んでいた頃である。

時に禪師は三代將軍義満の重臣細川頼之公その養子頼元公に丹波の国にお寺を建立せよと懇請せられた。

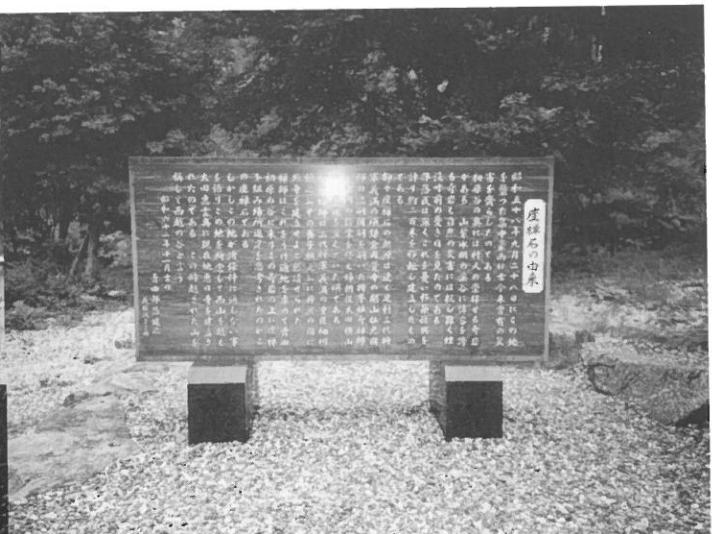
禪師はこれをうけ適地を求めて青田初原の谷に來りこの奇岩の上に座禅を組み場所選定を思考されたのがこの座禅石である。しかしこの地が諸條件に適しない事を悟りこの地を断念して西山を越え太田惠雲奥に現在地恵日寺を建立されたのである。この時越された山を稱して西越の谷と言つ

昭和六十二年十一月吉日

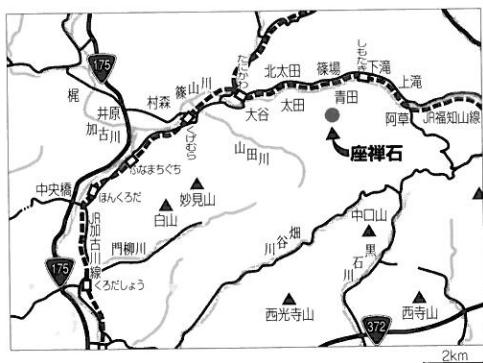
青田部落建之  
義積誠堂書丹



被災状況



現状



▶ 交通案内

◎JR福知山線下滝駅下車 徒歩25分  
県道篠山山南線上久下より1km 車で約5分

▶ 所在地

兵庫県氷上郡山南町青田地先

▶ 水系名及び溪流名

加古川水系青田初原川





## 殉職者碑

130

富山県

◎建立者／立山砂防工事安全協議会  
◎建立年／昭和五十九年十月十一日

安政五年（一八五八年）の飛越地震による鳶山の崩壊土砂により、立山カルデラを源流とする常願寺川は日本屈指の荒廃河川となり、以来、下流の富山平野に大きな被害をもたらしてきた。これに対し明治三十四年、富山県によって本格的な砂防工事が施工されるが、嘗々と築きあげた施設をすべて無に帰してしまうほどの災害が頻発。遂に大正十五年、国による直轄工事が開始されたのである。

しかし工事開始から九十年が経過した現在も多大な費用と尊い工事中の事故により人命を奪い続けており、とくに立山砂防の根幹をなす白石堰堤工事では多くの人が奪われたのである。この石碑は昭和五十九年十月十一日、工事で働く人々の安全と殉職者への慰靈のために建立されたものである。

## 碑文

裏面  
殉職者碑

昭和五十九年十月

立山砂防工事安全協議会  
立山砂防工事事務所長

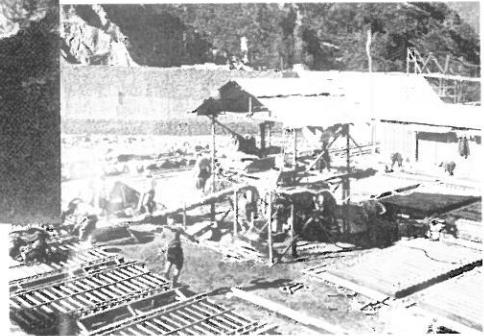
五十嵐 武 書



白岩砂防ダム現況



白岩砂防ダム基礎コンクリート打設  
中に襲った洪水の状況



白岩枠型護岸コンクリート柱の制作(昭和9年～10年)



▶所在地

富山県中新川郡立山町芦嶺寺字ブナ坂外

▶水系名及び溪流名

常願寺川水系

▶問い合わせ先

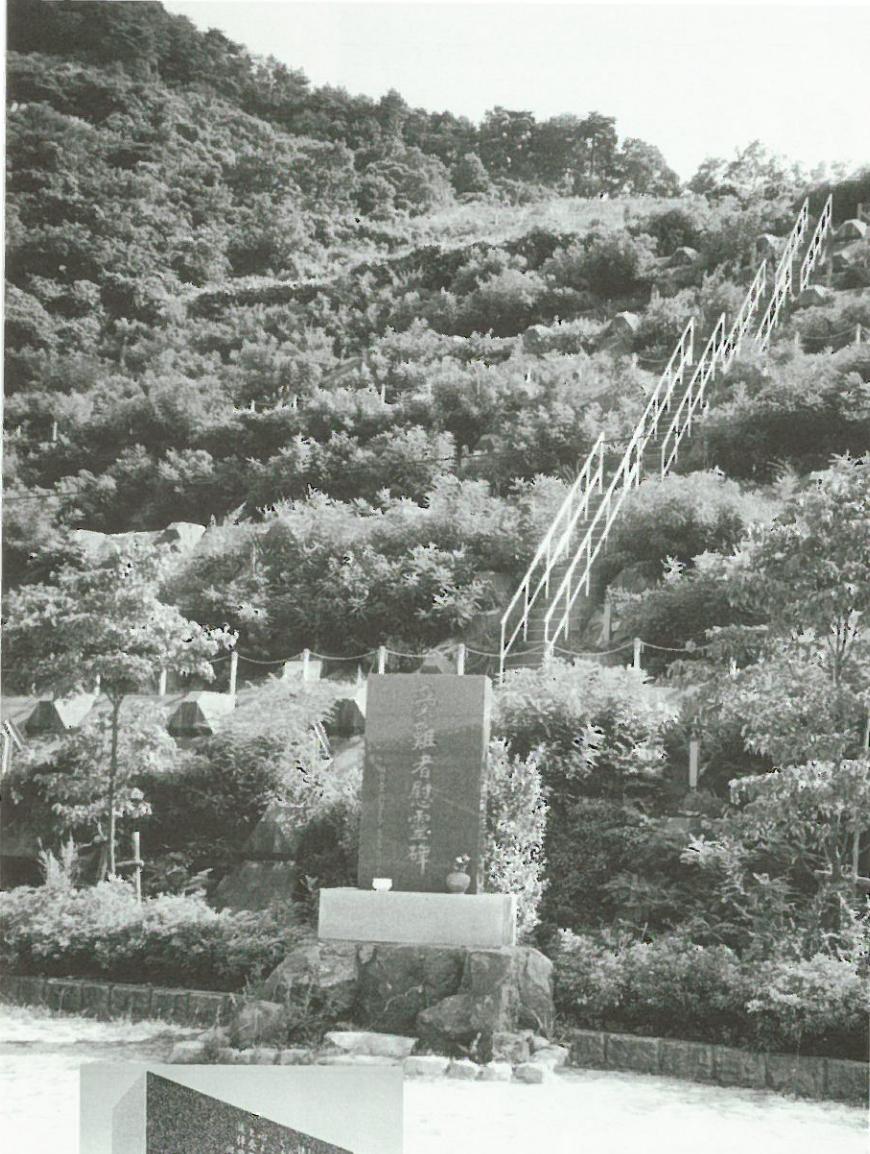
建設省立山砂防工事事務所 調査課 電話0764-82-1111



# 玉ノ木地すべり災害 受難者慰靈碑

昭和六十年（一九八五年）二月十五日午後六時二十五分、玉ノ木地区の裏山（通称筑田山）が突如として幅七十メートル、長さ百十メートルにわたって崩れ落ちた。この地すべりは神社・尼寺と民家五戸を瞬時に押しつぶした。消防、警察、国・県・町等の関係機関、付近住民の必死の救出作業で、四名は助け出されたが、三才の幼児から六十九歳の被害者十名は、その努力も空しく帰らぬ人となつたのである。

この碑は、惨事の犠牲者の冥福を祈り追悼し、犠牲者の十名の氏名を刻み、昭和六十三年八月十五日に益供養にあわせ玉ノ木地区住民が建立したものである。また、災害復旧工事と地すべり防止工事の完成にあたり、昭和六十三年に復興記念碑が建てられている。



碑文

裏面  
受難者慰靈碑

国務大臣総務庁長官 高島 修 謹書

裏面

受難者慰靈碑

昭和六十年二月十五日午後六時二十五分突如として発生した「玉ノ木地区土砂崩れ」は十二社神社尼寺普門庵民家五戸を一瞬にして押し潰した。消防団警察官付近住民の必死の救助作業も空しく十名の尊い生命を奪つ大惨事をとなつた。

この災害に全国より寄せられた方々の御厚志に心より感謝すると共に当玉ノ木部落の永遠の発展と受難の方々の御冥福を祈念して私達はここに追悼の碑を建立する。

昭和六十三年八月十五日

玉ノ木区長 大西 一信

玉ノ木区民 一同

受難者遺族 一同

永眠された方 一同

大西 素治郎 六十六才

大西 節子 六十才

大西 真智子 三十才

大西 紀仁 六才

大西 龍留 三才

見辺 シズ 六十九才

見辺 かつみ 四十三才

見辺 祐子 五十七才

見辺 悅郎 五十一才

見辺 フジ子



玉ノ木地すべり被災状況



現況



▶交通案内

◎JR北陸本線市振駅下車 国道8号線を富山方向に徒歩約5分

▶所在地

新潟県西頸城郡青海町大字玉ノ木

▶問い合わせ先

新潟県砂防課 電話025-285-5511





132

鳥取県

◎建立者／建設省倉吉工事事務所  
◎建立年／昭和六十年十一月十六日

# 天神川水系直轄砂防事業 五十周年記念碑

農民匡救事業が開始（昭和七年）されて間もない昭和九年、室戸台風により天神川のいたる所で豪雨による大崩壊が発生し、洪水流に土石流が加わって下流の平野部に多大な被害を与えた。

これを契機に、天神川改修事業が内務省の直轄事業で計画・施工された。統いて昭和十一年六月十日、砂防法第六条により、内務省直轄砂防区域が全地域を対象として告示され、この後、時代の変遷を受けながら天神川水系七溪流の土石流対策として砂防ダム二十三基、流路工九千九百三メートルの事業を行った。

石碑は昭和六十一年十一月十六日、事業開始から五十年を経た直轄砂防事業を記念し、建立された。

## 碑文

表  
面

天神川水系直轄砂防事業五十周年記念碑

揮毫者 坂野重信

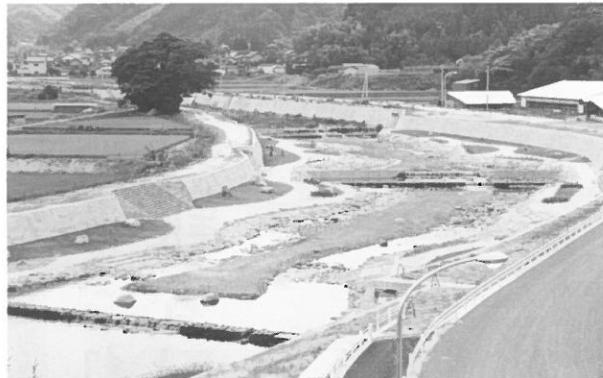
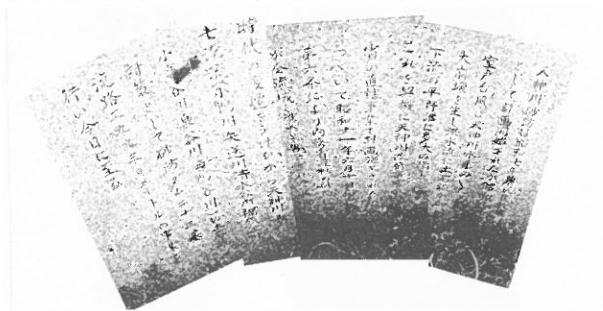
裏  
面

天神川砂防は、昭和七年農民匡救事業として計画開始されたが、昭和九年の室戸台風は、天神川水系のいたる所に大崩壊を生じ、洪水流に土石流が加つて下流の平野部に多大の損害を与えた。

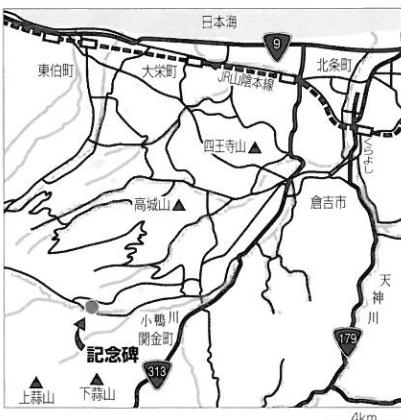
これを契機に天神川改修事業が内務省の直轄事業で計画施工された。ついで昭和十一年六月十日砂防法第六条により内務省直轄砂防区域が全地域を対象として告示された。其の後、時代の変遷をうけながら天神川水系七溪流（小鴨川・矢送川・清水谷川・福原谷川・小泉谷川・泉谷川・西鴨谷川）の土石流対策として砂防ダム二十二基・流路工九千九百三十メートルの事業を行い今日に至る。



対策工事の状況(清水谷川第3号堰堤:昭和13年3月完成)



復興状況(矢送川流路工:昭和44年10月着工、施工中)



### ▶ 交通案内

◎JR山陰線倉吉駅下車 日交バス関金温泉線明高行 山守小学校下車  
徒歩約2分

◎国道313号関金橋より6km 車で約10分

### ▶ 所在地

鳥取県東伯郡関金町堀地先

### ▶ 水系名及び渓流名

天神川水系小鴨川

### ▶問い合わせ先

建設省倉吉工事事務所 工務第1課 電話0858-26-6221



# 柵口なだれ災害 受難者慰靈碑

昭和六十一年（一九八六年）一月二十六日の夜半、新潟県権現岳の中腹から発生した表層雪崩が柵口地区を襲い、家屋もろとも三十数名を生き埋めにした。必死の救出作業も空しく死者十三名、負傷者九名を出す惨事となった。

この雪崩による災害は、規模が非常に大きかったために、災害の復旧に当たっては、建設省所管の雪崩対策事業と、林野庁所管の災害関連緊急治山事業、なだれ防止林造成事業とで工区を調整しながら、工事が実施された。建設省所管の雪崩対策事業では、全国で初めてという雪崩の勢いを緩和する減勢工と、防護工事が合わせて行われている。

受難者慰靈碑には、「亡くなつた十三名の氏名が刻まれており、昭和六十一年十一月に建立された。



碑文

裏面

柵口なだれ災害  
受難者慰靈碑

衆議院議員 高鳥 修 謹書

裏面

昭和六十一年一月二十六日夜半突如として襲った  
豪雪崩は一瞬のうちに住家と共に三十数名を呑  
みこんだ。

消防団警察官附近住民の八時間にわたる必死の救  
出作業もむなしく十三名の尊い命を奪う大惨事と  
なった。この災害に寄せられた方々の御厚志に心より  
感謝し柵口部落の永遠の発展と受難者の御冥福  
を祈念して追悼の碑を建立する。

昭和六十一年十一月 能生町長伊藤仙太郎

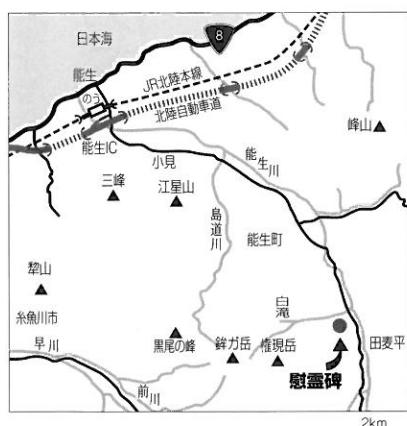
柵口区長 白石司  
敷地協力者 土田重右工門



被災状況



施設全景（減勢工、防護工）



▶交通案内

◎JR北陸本線能生駅下車 頸城バス(西飛山または田麦平行き)

田麦平バス停下車 徒歩約15分

▶所在地

新潟県西頸城郡能生町大字柵口

▶問い合わせ先

新潟県砂防課 電話025-285-5511



# 直轄砂防五十年之碑

阿武隈川水系の砂防事業は、明治三十二年（一八九九年）に福島県によって荒川流域で開始され、それ以降、多くの事業が実施してきた。

なかでも荒廃の著しい荒川流域が、昭和十一年（一九三六年）直轄施工区域に編入された。これは県厅所在地である福島市をその流域に抱えており、保全対策上、是非とも必要されたことでもあった。さらに昭和二十五年（一九五〇年）には松川流域、昭和五十二年（一九七七年）には須川流域が編入され、福島工事事務所で事業が実施してきたのである。

昭和六十一年は、荒川流域で砂防事業が実施されて五十年を迎える年であった。これを一つの節目として、福島市土湯温泉町に、この碑が建てられたものである。



## 碑文

裏面  
直轄砂防五十年之碑

天野 光晴  
書

荒廃著しい吾妻山系のこゝ荒川に國が昭和十一年砂防工事に着手以来阿武隈川水系直轄砂防が五十周年を迎えた、我々は、これを節目として先人の偉業を讃えると共に、土砂災害の防止と、地域の發展を祈念しこの碑を建立する

昭和六十一年六月吉日

建設省福島工事事務所長 竹内 俊夫  
寄贈 社団法人 東北建設協会  
書



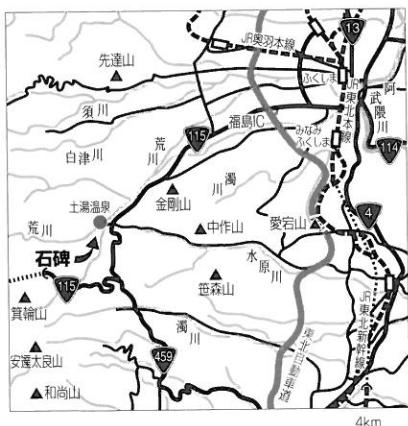
土湯村(現在の土湯温泉町)を襲った土石流(昭和13年)



土湯温泉を流れるライトアップされた荒川流路工(平成8年)



施工中の荒川第1ダム(昭和12年)



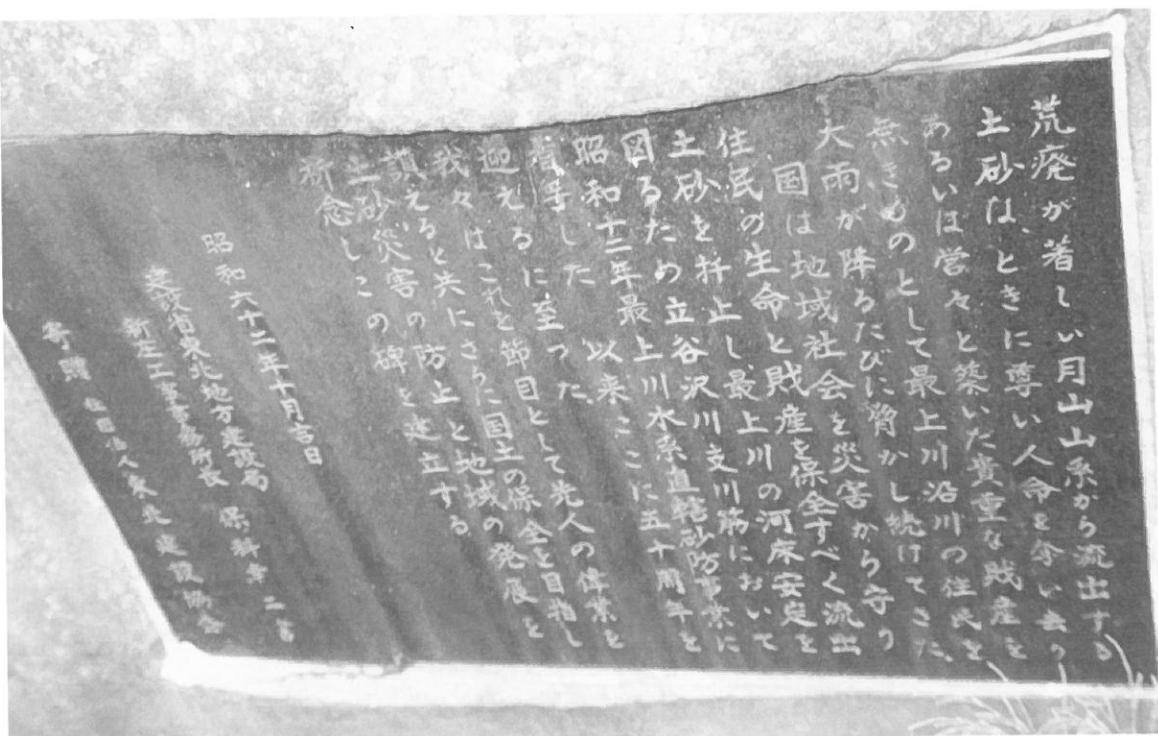
- ▶ 交通案内
  - JR福島駅下車 福島交通バス土湯温泉行き土湯温泉支所前バス停下車 歩歩1分
  - 国道115号土湯温泉町恵戸尻交差点より土湯温泉方面へ700m 車で3分
- ▶ 所在地
  - 福島県福島市土湯温泉町杉の下地先(月乃湯橋左岸)
- ▶ 水系名及び溪流名
  - 阿武隈川水系荒川
- ▶ 問い合わせ先
  - 建設省福島工事事務所 調査課 電話0245-46-4331



# 最上川水系直轄砂防事業 砂防50年の碑

昭和六十二年（一九八七年）が最上川水系に直轄砂防事業が着手されて五十周年を迎えた時にあたり、それを記念して建立された。最上川は荒廃が著しい月山山系からの土砂流出により、大雨のたびに川沿いの住民を脅かし、時には人命さえも奪つてきた。国は、最上川の河床の安定をはかるために、立谷沢川支川筋において、昭和十二年（一九三七年）に最上川水系直轄砂防事業に着手した。五十周年を節目として、先人の偉業を讃え、さらに国土の保全、土砂災害の防止、地域の発展を祈念して、石碑が建てられたのである。





碑文

最上川水系直轄砂防事業  
砂防50年  
裏面

東北地方建設局長  
吉越治雄

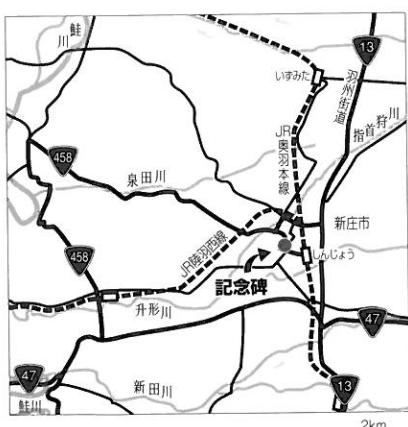
裏面

荒廃が著しい月山山系から流出する土砂は、ときに尊い人命を奪い去りあるいは營々と築いた貴重な財産を無きものとして最上川沿川の住民を大雨が降るたびに脅かし続けてきた。

國は地域社会を保全すべく流出土砂を止し、最上川の河床安定を図るため立谷沢川支川筋において昭和十二年最上川水系直轄砂防事業を開始した。昭和十三年以来、この区域の砂防事業は、これと節目として先人の偉業を讃えるに至った。昭和三十二年十月吉日、新念しこの碑を建立する。

我々はこれを節目として先人の偉業を讃えると共にさらに国土の保全を目指し土砂災害の防止と地域の発展を祈念しこの碑を建立する。

昭和六十二年十月吉日  
建設省東北地方建設局  
新庄工事事務所長 保科幸一書  
寄贈 社団法人東北建設協会



▶交通案内  
◎JR奥羽本線新庄駅下車 徒歩10分  
▶所在地  
山形県新庄市小田島町(新庄工事事務所構内)  
▶問い合わせ先  
建設省新庄工事事務所 調査課 電話0233-22-0251



# 天竜川直轄砂防 発祥の地碑

天竜川直轄砂防

## 発祥の地

建設省  
成田久夫書

天竜川の支流・小渋川水系の砂防工事は、昭和八年に長野県が同川上流の小渋上沢に着工したのが最初であるが、同十二年に至つて内務省の直轄事業に移され、各所堰堤工事などの着手がはじまった。

そして天竜川の上流、小渋川流域の直轄砂防事業が着手してから昭和六十二年で五十周年となることから、その間の努力と功績に対し、大鹿村によって記念碑が設置された。

碑文は、「昭和十二年直轄砂防着工以来 砂防一路五十年先人の努力と功績を讃え 感謝の意を込め之を建」と刻み込まれた。





## 碑文

表  
面

天竜川直轄砂防  
発祥の地

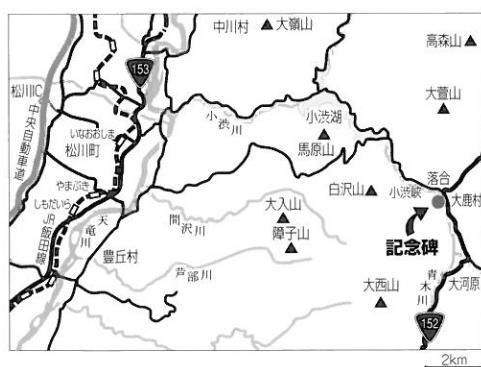
建設省 成田久夫書

裏  
面

昭和十二年直轄砂防着工以来  
砂防一路五十年

先人の努力と功績を讃え  
感謝の意を込め之を建

昭和六十二年十二月  
大鹿村



### ▶ 交通案内

◎JR伊那大島駅よりバスで大鹿村まで50分  
中央自動車道松川インターチェンジ  
大鹿村まで約40分

### ▶ 所在地

長野県下伊那郡大鹿村

### ▶ 水系及び溪流名

天竜川水系小渋川

### ▶ 問い合わせ先

建設省天竜川上流工事事務所 砂防調査課 電話0265-81-6417



# 直轄砂防事業50周年記念

137

兵庫県

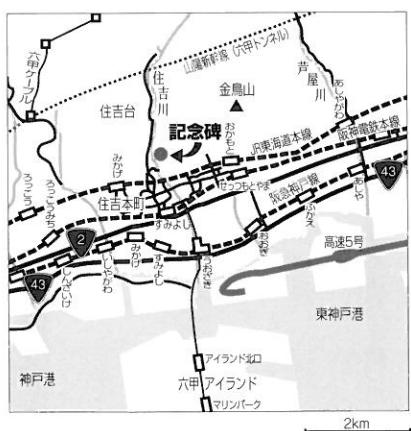
◎建立者／建設省六甲砂防工事事務所  
◎建立年／昭和六十三年七月

## 直轄砂防事業 50周年記念碑

阪神大水害の復興を機に昭和十三年に設立された六甲砂防工事事務所は、昭和六十三年に五十周年を迎えた。これを記念して阪神大水害時に大きな被害をもたらした住吉川を望む地に「直轄砂防事業50周年記念」の碑が建立された。そして間もなく六甲砂防工事事務所は還暦を迎える。この間、昭和四十一年災害、兵庫県南部地震と二度の大災害を受けたが、砂防事業の効果を最大限に發揮し、神戸・阪神間の復興と発展に大きく寄与している。



都市砂防 大都市の暮らしを守る砂防ダム



▶ 交通案内

◎ JR東海道線住吉駅下車 神戸市営バス38系統

観音橋バス亭下車 徒歩約5分

▶ 所在地

兵庫県神戸市東灘区西岡本六丁目地先

(清流の道公園内)

▶ 水系名及び溪流名

住吉川

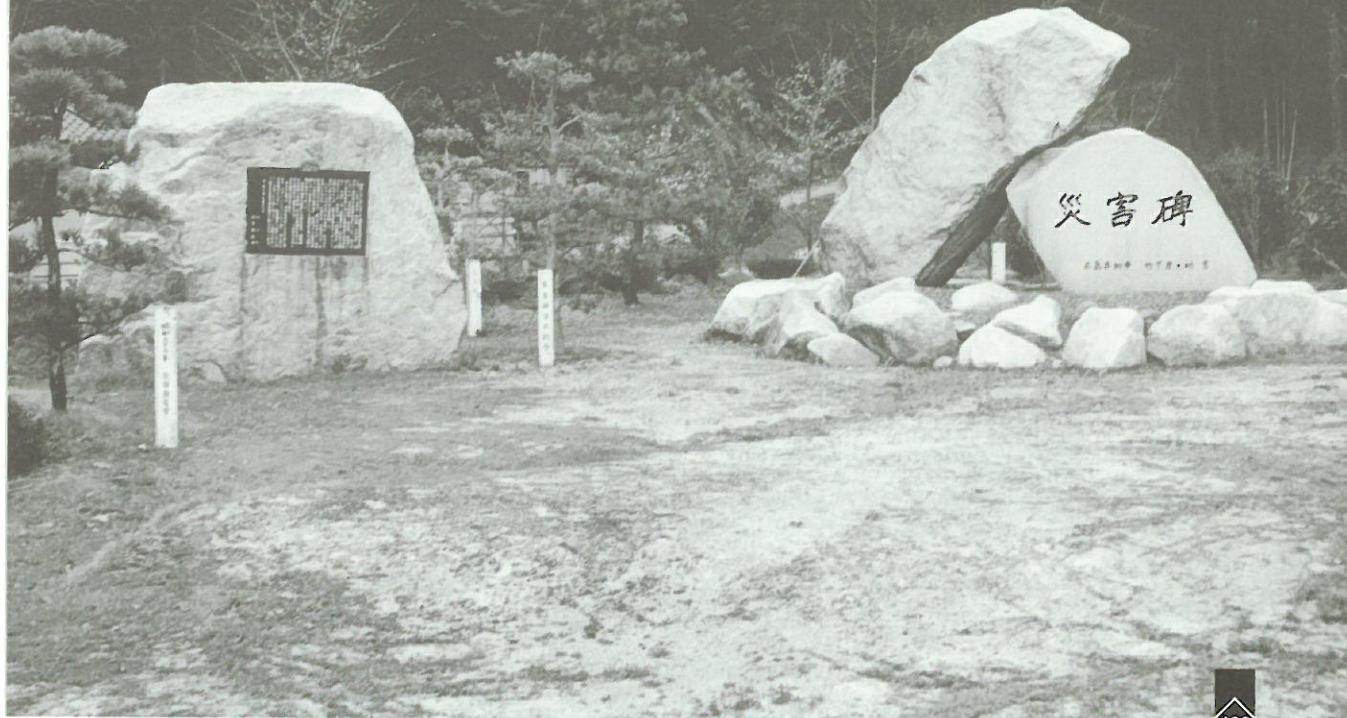
▶問い合わせ先

建設省六甲砂防工事事務所 調査課 電話078-851-0535



## 災害碑

◆昭和六十三年 広島県北西部豪雨災害◆



昭和六十三年七月二十日夜半、広島県北西部と島根県西部を襲った集中豪雨は、山地の斜面崩壊や土石流を引き起こし、両県合せて二十名の生命を奪った。なかでも広島県の加計町、筒賀村、戸河内町は局地的な被害をこうむり、加計町では死者十一名、負傷者十名、民家の全壊流失三十三戸を数えた。これは江河内谷川、峠谷川、山城川をはじめ町内各地において発生した土石流によるもので、寛永八年以来という大災害であった。土石流は正教山の頂上付近で発生し、江河内地区へ達したときは高さ十一メートル、幅五十メートル、時速四十キロを記録。約四万トンと推定される土石が集落の十四戸をひとつのみにした。石碑はこの大災害を記憶にとどめておくために建立されたものである。

災害碑  
広島県知事

竹下虎之助書

昭和六十三年七月二十日夜半広島県北部を襲った集中豪雨は、加計町・戸河内町・筒賀村に局地的な大災害をもたらした。加計町においては、江河内谷川、峠谷川、山城川をはじめ町内各地において未曾有の土石流が発生し、死者十一名、負傷者十名、家屋の全壊流失三十三戸という寛政八年以来の大災害を被った。

なかでも江河内谷川の土石流は、約四万立方米にもおよび、死者十名、負傷者七名、住家の全壊流失十九戸、床上浸水十三戸、山城川では、住家の全壊五戸、峠谷川では、住家の半壊三戸の大災害となり其の惨状たるや言語に絶するものであった。行方不明者の捜索には地域住民、消防団、山県西部消防組合、県警察機動隊をはじめ、陸上自衛隊の出動を要請し、三日間の活動により全員の発見を見た。

今次の災害は、河川の洪水によるものと異なり、予想だにしないものであり、防災施設の整備はもちろん、災害防止には常に意を新たにすることを胆に銘じ、ここに石碑を建立して永久に災害の発生防止を願うものである。

平成三年七月十七日



▶交通案内

◎JR可部線殿賀駅下車 徒歩約10分

▶所在地

広島県山県郡加計町河内

▶水系名及び溪流名

太田川水系江河内谷川

▶問い合わせ先

広島県砂防課 電話082-228-2111





39

広島県

◎建立者／戸河内町

◎建立年／平成四年十一月

## 復旧記念碑

◆昭和六十三年 広島県北西部豪雨災害◆

昭和六十三年七月二十日から翌二十一日未明にかけて戸河内町・加計町一帯を襲った「広島県北西部豪雨災害」。降雨は短時間に集中し、六時間の雨量は二百四十六ミリに達した。特に二十一日一時から四時までの雨量は一時間四十ミリを超え、各所で土石流が発生。死者・行方不明者十四名、負傷者十一名、家屋の全壊三十八戸など大きな被害を出した。

戸河内町でも大規模な土石流によって河川の氾濫や道路の決壊、農地の流出をもたらし、死者三名、家屋の損壊百十七棟などの被害をこうむつた。これに対し、災害復旧のための工事が施工された。石碑は本事業の竣工を記念し、平成四年十一月に建立されたものである。

碑文

裏面

昭和63年7月災害 復旧記念碑  
広島県議会建設委員長 宮本森三書

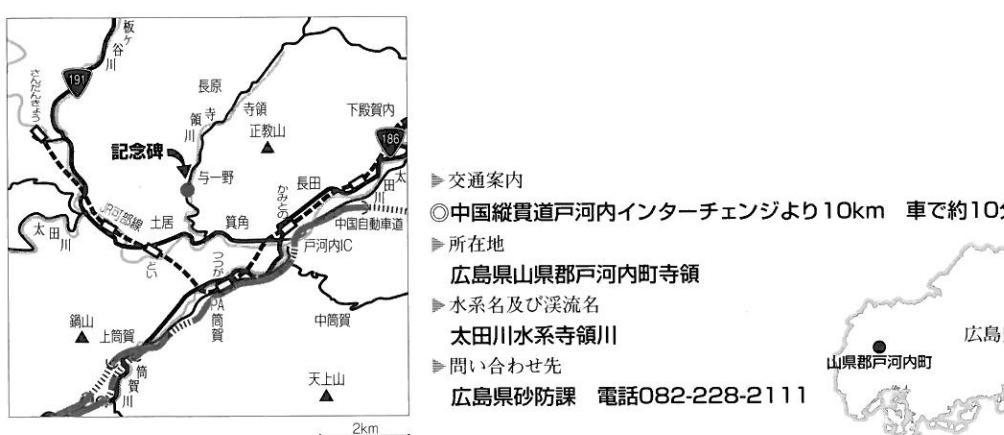
碑文

昭和六十三年七月二十日から二十一日未明にかけて戸河内町を襲つた集中豪雨は短時間に降雨量二六一ミリに達し特に二一日一時から四時までの間は一時間に四十ミリを越える記録的な豪雨で町内各所において大規模な土石流が発生するとともに河川の氾濫や道路の決壊 農地の流出、冠水、農林業施設及び死者三名、家屋の破損二七棟等未曾有の被害をもたらした。

この寺領地域は町内でも特に被害が甚大であつたが国及び県の暖かい援助と地元住民の熱意により復旧工事は完成した。

ここに寺領地域の災害復旧を記念して碑を建立する。

平成四年十一月  
戸河内町



## 治水の碑



北上川水系南沢川の上流に位置する石貝川は、下流の耕土を潤すとともに住民生活にかけがえのない自然環境を提供してきた。しかし、降雨、増水時は農地災害をはじめ、時には流域住民の生命財産をも脅かす暴れ川に変身することもあった。とくに戦後の相次ぐ台風による被害は甚大で、なんらかの対策が待たれていた。

そこで昭和二十六年から砂防事業に取り組み、国、県の指導を受けながら事業の推進を図ってきた。その結果、着手から三十四年という年月をかけ、昭和六十年に念願の流路工が完成した。昭和六十三年九月、地域住民が自らの発案によって治水(砂防)事業の大切さを訴えるものとして「治水の碑」を建立したものである。



## 碑文

治水の碑 建設大臣 内海英男書  
沿革

石貝川は北上川水系南沢川の上流に位置し河川延長五キロメートル、流域面積六百ヘクタールを有し、流れ出る水は下流の耕土を潤すとともに住民生活においてもかけ替えのない自然環境として親しまれてきた。反面、降雨増水時の際は農地災害はもちろんのこと、時には流域住民の生命財産をも脅かす暴れ川に変身することもあった。

これらを憂慮した町ならびに県は昭和二十六年度から砂防事業に取り組み、昭和四十五年度迄上流部にダム工事を五基整備した。さらに中、下流部における河床浸食防止と人家、耕地などを保全のため、昭和五十四年度から砂防工事に着手し、七年の歳月と五億五千四百万円の工事費を投入して、昭和六十年度に完成を見た。

常に民心の安定と災害防止を念じて治水砂防に取り組んできた苦難の歴史を刻み併せて、地区民の全面的協力と関係各位の御尽力に感謝申し上げ、ここに記念碑を建立する。

昭和六十三年九月吉日 建立  
石貝ふるさと建設委員会  
石貝部落会



▶交通案内  
◎JR気仙沼線柳津駅下車 車で3分 国道45号道の駅「津山」 車で5分  
▶所在地  
宮城県本吉郡津山村石貝地内  
▶水系名及び溪流名  
北上川水系南沢川支石貝川  
▶問い合わせ先  
宮城県砂防課 電話022-211-3233





141

栃木県

◎建立者／建設省日光砂防工事事務所  
◎建立年／昭和六十三年十月二十一日

## 砂防70周年記念碑

日光の稻荷川の砂防堰堤工事開始は古く、最初の砂防堰堤「稻荷川第一堰堤」が着手されたのは大正七年（一九一八年）である。以来、建設省日光砂防工事事務所により、継続して砂防工事が実施され、稻荷川周辺の環境は現状のように整備されてきたのである。

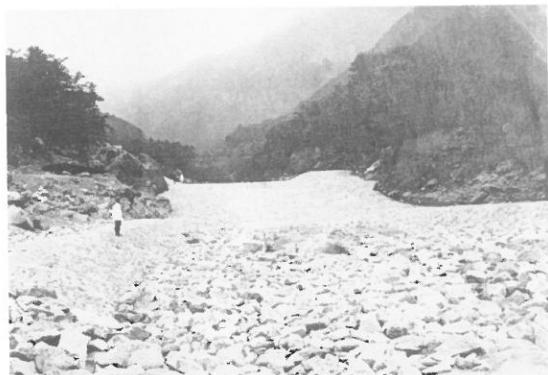
建立された石碑は、最初の砂防堰堤「稻荷川第一堰堤」に着手してから七十年経ったことを記念し、建設省日光砂防工事事務所により設置されたものである。

## 碑文

砂防成って日光平安  
建設省日光砂防70周年記念  
昭和63年10月22日  
日光市長齊藤善藏



日光砂防で初めて着手した砂防ダム。  
稲荷川第一堰堤施工状況(大正8年3月撮影)



稲荷川第1堰堤完成状況(大正8年)  
この後、同年9月20日大出水により流出



台風26号による被災状況 日光市山内地先(昭和41年9月)



台風26号による被災状況 日光市中宮祠地先(昭和41年9月)



▶ 交通案内

- JR日光線日光駅 東部日光線東部日光駅下車 徒歩約15分
- 国道119号松原町交差点より車で2分

▶ 所在地

栃木県日光市山内地先

▶ 水系名及び溪流名

利根川水系鬼怒川右支川大谷川

▶問い合わせ先

建設省日光砂防工事事務所 調査課 電話0288-54-1191



# 砂防之碑



四国の吉野川水系は美しい自然の景観を随所に擁し、観光地として親しまれている。だが、その中流域はみかぶ構造線が走り、全国でも有数の破碎帶地すべり地帯で過去に幾度となく土砂災害を起こしている。

これに対し、砂防ダムをはじめとする砂防施設が鋭意建設されてきた。吉野川直轄砂防事業は明治十八年に曾江谷川ではじめられ、砂防の先駆者・赤木正雄博士の苦心の跡も残されている。その後、直轄事業は一時中断し昭和四十六年から祖谷川、南小川で事業を再開、逐次施工区域を拡大して施設一〇〇箇所目の水車合堰堤が平成元年に完成した。

石碑は平成元年二月二十八日、施設一〇〇箇所完成を記念して建立されたものである。

## 碑文

表  
砂防之碑

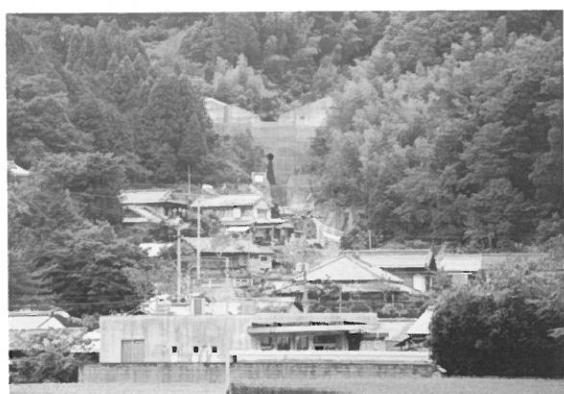
裏面  
四国地方建設局長 佐藤清書

吉野川直轄砂防事業は、明治十八年に曾江谷川で始められ、砂防の先駆者赤木正雄博士の苦心の跡も残されている。昭和四十六年から祖谷川、南小川で事業を再開し、その後逐次施工区域を拡大し、平成元年に至り、砂防施設百箇所目の水車谷堰堤が完成した。ここに百箇所完成を記念するとともに、地域の礎として国土保全、土砂災害に傾けられた人々の努力を偲び、地域の発展、砂防事業の一層の推進を祈念し、本碑を建てたものである。

建設省 吉野川砂防工事事務所  
平成元年二月二十八日

古野川直轄砂防事業は、明治十八年に曾江谷川で始められ、砂防の先駆者赤木正雄博士の苦心の跡も残されている。昭和四十六年から祖谷川、南小川で事業を再開し、その後逐次施工区域を拡大し、平成元年に至り、砂防施設百箇所目の水車谷堰堤が完成した。ここに百箇所完成を記念するとともに、地域の礎として国土保全、土砂災害に傾けられた人々の努力を偲び、地域の発展、砂防事業の一層の推進を祈念し、本碑を建てたものである。

建設省 吉野川砂防工事事務所  
平成元年二月二十八日



トウメン谷堰堤 高知県土佐町 平成2年完成



中村谷堰堤 高知県土佐町 平成7年完成



- ▶ 交通案内
- JR土讃線大杉駅下車 嶺北観光バス田井行き田井営業所下車 日ノ浦行きバスに乗換 日ノ浦停留所下車
- 高知自動車道 大豊インターチェンジより約50km 車で約1時間30分
- ▶ 所在地
- 高知県土佐郡本川村脇/山地先 水車谷堰堤
- ▶ 水系名及び溪流名  
吉野川水系水車谷
- ▶問い合わせ先  
建設省四国山地砂防工事事務所 調査課 電話0883-72-5400

# 長沢砂防災害復旧事業 完成記念碑

長沢砂防災害復旧事業  
完成記念碑

平成元年三月 東京都

昭和六十一年十一月十五日、伊豆大島の三原山が十二年ぶりに噴火した。このときの規模は小さかつたが、同月二十日には大噴火が起り、溶岩流が元町に迫った。さらに長沢が溶岩によって一キロにわたって埋没した。噴火はその後も続き、同夜全島民は島外に避難する異常事態となつたのである。

大島は多雨地域であることから、長沢の河川としての機能を早期に回復する必要があり、元河道のわきに新たな流路工を設置することとなつた。また、上流域の不安定土砂の流出を防止するためのダムの設置、流下能力の小さい区間の河道の拡幅などの河道整備なども行つた。平成元年三月三十一日、その完成を記念してこの碑を建立したものである。





### 割れ目火口の噴火状況

三原山山腹の割れ目噴火により流出した溶岩が長沢を2kmにわたって埋めつくした。



#### ▶ 交通案内

○元町北口バス停下車 徒歩20分(1.7km)  
途中700mで大島町霊園元町墓地あり  
残り1kmは流路工管理通路

#### ▶ 所在地

東京都大島町元町

#### ▶ 水系名及び溪流名

長沢

▶問い合わせ先  
東京都建設局河川部防災課 電話03-5320-5432



# 軍沢川砂防ダム竣工記念碑

軍沢川は、その源を宮城、秋田、山形の三県境の軍沢岳（一一千九三、七メートル）南方二千軒の峰に発し、国道一の八号線を横断して江合川に合流する江合川最大の支流であり、流域面積、二千平方キロ、流路延長、一〇〇キロ、高さ、七〇〇メートルの荒廃河川である。

江合川へ流域面積五九一、三平方キロ、流域延長八〇キロ、上流水源地一帯の地形は全般的に盆地であり、地質は火山帶特有的軟弱な岩石で構成され、荒廃地が多く、古くから砂防事業が施行されてきたが、明治四三年の大洪水を始め、戦後の相次ぐ台風などにより各支川の堤防が直しく、本川上流区域は流出された多量の堆積土砂により甚大な被害を受けた。

昭和二六年には、不動滝ダム（堤長七五メートル、堤高一五メートル、貯水量三万立方メートル）を建設し、土砂流下の杯止に効果を發揮してきたが、これも既に満砂の状態となり、このためその下流約六〇メートルの堤防に昭和五三年からダム建設に着手し、平成元年一〇月竣工となり、これが完成した。

この軍沢川砂防ダムの竣工により、江合川流域における土砂災害の防止に重要な役割を果すものと期待される。平成元年十月 宮城県 土木部長 間野貢

## 軍沢川砂防ダム諸元

### 工事諸元

河川名地

江合川

工事月日

平成元年十月

起業者

工事施工者

設計諸元

計画地

### 工事從事者

#### 所長

柏原一郎

松崎常雄

田中利考

松永哲夫

工務課長

班目峰人

佐藤重雄

小野昌義

持野重吉

今野清喜

門脇和喜

青松昌利

阿部健一

監督者

監督者

監督者

監督者

監督者

監督者

監督者

監督者

144  
宮城県

◎建立者／宮城県 ◎建立年／平成元年十月

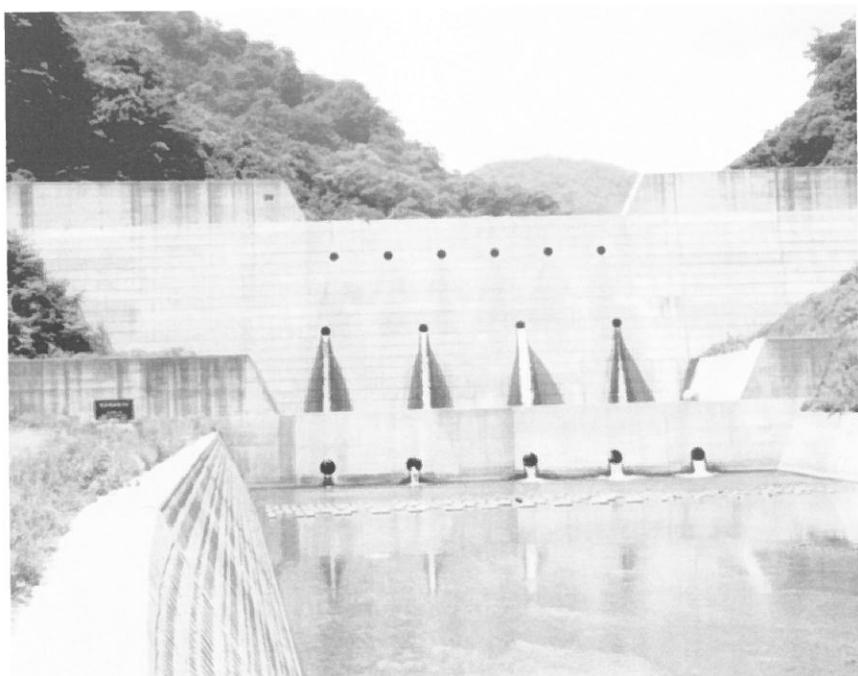
# 軍沢川砂防ダム竣工記念碑

宮城、秋田、山形の県境にある軍沢岳の南に源を発する軍沢川は江合川に合流する支流中最大のもので、流域面積二千平方キロ、流路延長十キロ、高低差七百メートルの荒廃河川である。江合川上流水源地一帯は荒廃地が多く、明治四十二年の大洪水をはじめ、戦後の相次ぐ台風などによって流出した多量の堆積土砂により甚大な被害を受けてきた。昭和二十六年には不動滝ダムを建設したが、不十分であることから昭和五十三年から軍沢川砂防ダム建設に着手して建設を進めてきた。このダムが平成元年十月に竣工し、この完成を記念して下流域の土砂災害の防止に寄与することを願つて碑を建立したものである。

## 軍沢川砂防ダム竣工記念碑

軍沢川は、その源を宮城、秋田、山形の三県境の軍沢岳（一、一九三・七米、南方二糠の峠に発し、国道一〇八号線を横断し、江合川に合流する江合川最大の支流であり、流域面積二〇平方糠、流路延長一〇糠、高低差七〇〇米の荒廃河川である。

江合川（流域面積五九一・三平方糠、流路延長八〇糠）上流水源地一帯の地形は全般的に急峻であり、地質は火山帶特有の軟弱な岩石で形成され、荒廃地が多く古くから砂防事業が施行されてきたが、明治四三年の大洪水を始め、戦後の相次ぐ台風などにより各支川の荒廃が甚だしく、本川上流区域は、流出された多量の堆積土砂により甚大な被害を受けた。



▶交通案内  
◎JR陸羽東線鳴子駅下車 車で40分

▶所在地

宮城県玉造郡鳴子町鬼首字上軍沢地内

▶水系名及び溪流名

北上川水系江合川支軍沢川

▶問い合わせ先

宮城県砂防課 電話022-211-3233



# 竣工の碑

昭和六十二年（一九八七年）の梅雨末期、七月十四日から二十日にかけての降雨の後、筑後川水系大山川の右岸護岸と、その上部の町道、および下流側の人家などに、地すべり末端の圧縮亀裂が発生した。この地すべりは、大規模ですべり面の深い岩盤すべりであり、放置したままさらに活発化すれば、大山町のみならず、下流域にも甚大な被害を及ぼすことが予測された。災害発生前の対策が急務とされ、昭和六十二年度災害関連緊急地すべり対策事業として、調査、解析、及び地すべり対策工事に着手したのである。

この対策工事は平成元年（一九八九年）に完成をみた。石碑は、大災害を未然に防止できたことに感謝して、建てられたものである。

地すべり工事  
竣工の碑

文部省  
土木監理  
工事監理  
大分県  
工事監理  
工事監理



## 碑文

表  
地すべり工事  
竣工の碑

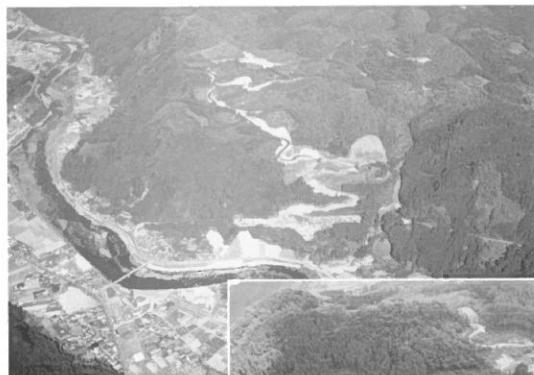
大分県知事 平松守彦

碑文  
裏面

昭和六十二年七月山際地区地すべり現象を発見。爾来、全国でも屈指の規模のものとされ、若し方が一の災害を想定する時大山町の中心部は壊滅的な被害を蒙ることになり地域住民の不安は募るばかりであります。町としては最善の対策に東奔西走を重ねる中、国県の深い御理解と迅速なる対応を戴き建設省所管災害関連緊急地すべり対策事業として総事業費五十億円で早期に着手し被害の発生を見ることなく、大災害を未然に防止することができました。この間 御尽力を賜りました関係者の方々に深甚の感謝の意を表します。

平成元年十一月

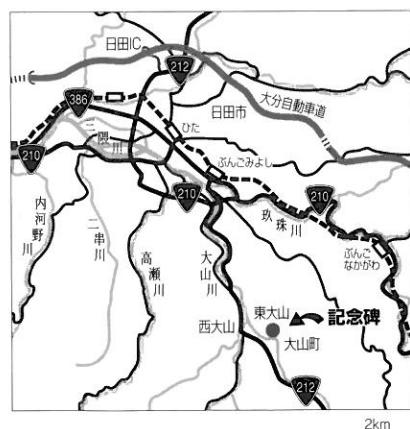
大山町長 伊藤 隆



被災状況



復旧状況



- ▶ 交通案内
  - ◎ JR九州線日田駅下車杖立(板原)行き大山町役場バス停下車 徒歩15分
  - 国道210号と212号交差点より6km 車で約15分
- ▶ 所在地  
大分県日田郡大山町大字東大山字山際
- ▶ 水系名及び渓流名  
筑後川水系筑後川支川大山川
- ▶ 問い合わせ先  
大分県砂防課 電話0975-36-1111



## 砂防の碑

宮城県本吉郡津山町は、昭和六十一年（一九八六年）八月四日から五日にかけて、台風十号に襲われた。町内を流れる南沢川の各支川では、記録的な豪雨により氾濫し、上流域では土石流が発生した。同時に、いたるところで土砂流出があり、沢沿いの家屋の半壊や浸水、田畠への土砂流出等、大きな被害を受けることになったのである。

この水沢は北上川水系南沢川右支流にあり、砂子沢、水沢を流れる急峻な渓流となっている。

津山町は激甚災害の指定を受け、四年の歳月をかけて災害復旧事業と荒廃砂防事業が行われた。事業の完成に合わせて、この石碑が建てられ、関係方面への感謝と災害の記録をとどめたのである。



水沢  
南沢川右支流上川家原  
沢川右支流に位置する本吉  
村三之郷の砂子沢がさわ  
ざるの流れをなす河川である  
その流れにはいろいろなよ  
うな災害が発生する事によ  
り生じたものである。その中で  
この大災害は砂防工事がな  
かなかったことによるもの  
の影響を受けたのが大きい。  
とゆえに下流の堤防が決  
壊され、その結果、堤防の分  
離に大きな被害が生じた。ま  
た、堤防が決壊したことによ  
り、堤防の下流側では、堤防  
月をもつて、堤防が決壊する形  
で大きな被害が生じた。その結果  
してしまったのである。

水沢居 津山町

## 碑 文

砂防の碑 津山町長 佐々木一郎 書  
沿革

水沢は、一級河川北上川水系南沢川の右支流に位置し、流域面積二・三七平方キロメートルの砂子沢、水沢を流下する急峻な溪流である。

さる昭和六十一年八月台風十号の通過時には、いたる所で渓岸浸食や、小規模な土砂流が発生し、沢沿いの家屋の半壊や浸水耕地への土砂流出等の甚大な被害が発生した。このため津山町では、激甚災害の指定を受けたが、土砂災害を未然に防止し下流民生の安定と国土の保全を図るよう災害復旧事業と荒廃砂防事業の合併により流路工床固工等延長一・四〇四キロメートルを総事業費約五億六千万円で昭和六十二年二月から平成元年六月までの期間地元の協力を得ながら完成したものである。

平成二年二月吉日 建立

宮城県 津山町



水沢現況



- ▶ 交通案内  
◎JR気仙沼線柳津駅下車 車で7分
- ▶ 所在地  
宮城県本吉郡津山町水沢地内
- ▶ 水系名及び渓流名  
北上川水系南沢川支水沢
- ▶ 問い合わせ先  
宮城県砂防課 電話022-211-3233



## 砂防の碑

昭和六十一年（一九八六年）八月四日から五日にかけて、台風十号による記録的な豪雨ために、宮城県津山町では、町内を流れる南沢川の各支川が氾濫した。上流域での土石流、あちこちで起きた土砂流出が原因となり、沢沿いでは家屋を壊し、耕地を土砂で埋没するなど、大きな被害をもたらした。

大萱沢は南沢の右支上流に位置し、流域面積六・四四平方キロメートルの宮田・前田沢、三地域を流過する急峻な溪流である。激甚災害の指定を受けた津山町では、四年の歳月をかけて大萱沢でも災害復旧事業と荒廃砂防事業の合併により、流路長二七八キロメートルを含む河川総延長六十二キロメートルの治水工事を実施する。この工事の完成に合わせて関係方面への感謝と災害の記録をとどめたのが、この石碑である。

平成元年  
津山町  
洋山町  
建立

### 砂防の碑

津山町役場



碑文

砂防の碑 津山町長 佐々木一郎 書  
沿革

大萱沢は、一級河川北上川水系南沢川の右支上流に位置し、流域面積 $6 \cdot 44 \text{ km}^2$ の宮田・前田沢、大萱沢との三地域

を流過する急峻な溪流である。さる昭和六十一年八月台風十号の通過時には、いたる所で溪岸浸食や、小規模な土砂流が発生し、沢沿いの家屋の半壊や浸水耕地への土砂流出等の甚大な被害が発生した。

このため津山町では、激甚災害の指定を受けたが、土砂災害を未然に防止し下流民生の安定と国土の保全を図るよう災害復旧事業と荒廃砂防事業の合併により流路工床固工等延長二・七八キロメートルを総事業費約十億円で昭和六十二年二月から平成元年六月までの期間地元の協力を得ながら完成したものである。

平成二年二月吉日 建立

宮城県 津山町



大萱沢現況



▶交通案内  
◎JR気仙沼線柳津駅下車 車で約10分  
▶所在地  
宮城県本吉郡津山町宮田地内  
▶水系名及び渓流名  
北上川水系南沢川支大萱沢  
▶問い合わせ先  
宮城県砂防課 電話022-211-3233



# 北月山龍神の碑

月山を源流とする立谷沢川は、現在恵の川として人々に親しまれているが、昔は大洪水が田畠を襲い、道路や橋梁を流出させ、尊い人命を奪うなど流域の人々の生活を脅かす恐怖の川であった。そして、こうした河川灾害は龍神によるものと信じられ、各所に龍神の碑が建立されてきた。

一方、治山治水事業については住民の要望にこたえ、多額の費用を投じて数多くの難工事が施工されてきた。

こうした経緯のなか、直轄砂防工事着工五十周年を契機に、地域では河川災害の脅威を忘れないよう治山治水の神として龍神をまつろうとする気運が高まった。そして平成二年七月、龍神像建設委員会によつて立谷沢川の上流・北月山荘の聖地に龍神観音堂と石碑が建立されたのである。



## 北月山龍神

## 北月山龍神観音堂の由来

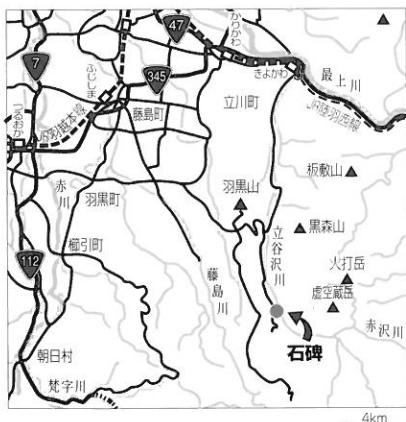
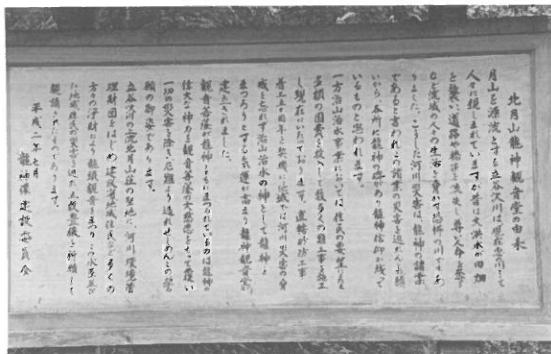
月山を源流とする立谷沢川は、現在患の川として人々に親しまれていますが昔は大洪水が田畠を襲い、道路や橋梁を流出し、尊い人命を奪つなど流域の人々の生活を脅かす恐怖の川でもありました。こうした河川災害は、龍神の仕業であると言われこの諸業の災害を逃れんとの願いから、各所に龍神の碑があり龍神信仰が残っているものと思われます。

一方治山治水事業においては、住民の要望にこたえ多額の国費を投入して数多くの難工事を施工し現在にいたっております。直轄砂防工事着工五十周年を契機に地域では河川災害の脅威を忘れず治山治水の神として龍神をまつろうとする気運が高まり龍神観音堂が建立されました。観音菩薩が龍神とともにまつられて、いるのは、龍神の偉大な神力を観音菩薩の大慈悲を持つて覆い一切の災害を除き、厄難より逃れせしめんとの誓願の御姿であります。

立谷沢川の上流北月山荘の聖地に、河川環境理財団をはじめ、建設省、地域住民など多くの方々の浄財により龍頭観音をまつり、この水系並びに地域住民の災害をされ、五穀豊穫を祈願して観請されたものであります。

平成二年七月

龍神像建設委員会



## ▶ 交通案内

◎立川町営バス立川町役場前発北月山荘下車

## ▶ 所在地

山形県東田川郡立川町字立谷沢地内(北月山荘敷地内)

## ▶ 水系名及び溪流名

最上川水系立谷沢川

## ▶ 聞い合わせ先

建設省新庄工事事務所 調査課 電話0233-22-0251

立谷沢川砂防出張所 電話0234-56-2050



# 十勝岳流路工 完成記念碑

十勝岳流路工

昭和63年12月25日 廣大



十勝岳

十勝岳は有史以来、これまでに安政四年（一八五七年）明治二十年（一八八七年）大正十五年（一九二六年）昭和三十七年（一九六二年）昭和六十三年（一九八八年）の五回の噴火を記録している。ことに大正十五年の噴火では大規模な泥流により、百四十四名の犠牲者を出すなどの大きな被害をもたらした。

北海道開発局旭川開発建設部では十勝岳流路工の完成を機に、過去の噴火の記憶を風化させることなく、「泥流の山十勝岳」の認識を常に忘れないよう、平成二年九月十一日、記念碑を建立したものである。

碑は十勝岳の稜線をイメージしたカタチとなつており、同六十三年の噴火写真がはめ込まれている。



### 碑文

表面 十勝岳流路工 昭和63年12月25日噴火

裏面 平成元年10月17日予算決定

平成2年9月 完成

旭川開発建設部

大城義久	加藤富雄	小林豊明
執行義久	神保正義	高橋繁樹
竹内正信	武田 純	任田正猛
中田悌二	橋本三郎	初馬誠二
船木淳悟	円山勝哉	柳屋圭吾



#### ▶交通案内

○JR富良野線美瑛駅下車  
道北バス白金温泉行き白金温泉下車  
徒歩1分

#### ▶所在地

北海道上川郡美瑛町白金温泉

#### ▶水系名及び溪流名

石狩川水系尻無沢川

#### ▶問い合わせ先

北海道開発局 旭川開発建設部 治水課 電話0166-24-2131



## 登川流路工記念碑

登川は古来より多量の土砂を下流に流出させ、大扇状地を形成しており、乱流などが激しいために地域の人々を水害などで苦しめてきた。また、近年は周辺の土地利用が高度化するなかで、地域住民より流路工整備の要望が高まってきた。

このような状況を踏まえ、昭和五十一年より登川流路工に着手。この間、五十六年から二年連続して大水害に見舞われるなど幾多の困難はあつたものの、平成二年十一月にはおよそ八十パーセントの進捗を見るに至った。この工事により流域住民の生命・財産が守られるとともに、背後地には工業団地や公園などが整備されてきてる。そこで着工から十五周年を記念して石碑が建立されたものである。



右石碑

ああよくなつたなあ  
まあ水がきれいだこと

皆で守ろういつまでも

上田南中部河川改修促進期成同盟会  
平成二年十一月吉日

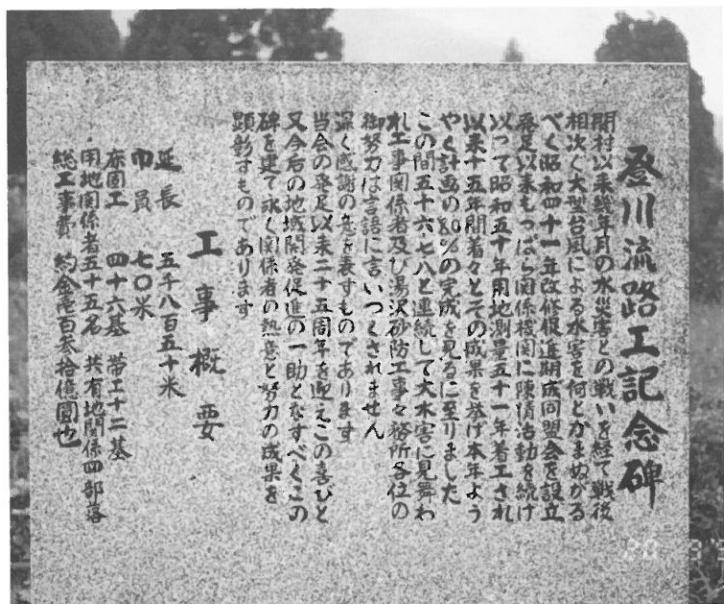
左石碑

登川流路工記念碑

開村以来幾年月の水害との戦いを経て戦後相次ぐ大型台風による水害を何とかまぬがるべく昭和四十一年改修促進期成同盟会を設立。発足以来もつぱら関係機関に陳情活動を続け以つて昭和五十年用地測量五十一年着工され以来十五年間着々とその成果を挙げ本年ようやく計画の80%の完成を見るに至りました。この間五十六・七・八と連続して大水害に見舞われ工事関係者及び湯沢砂防工事事務所各位の御努力は言いつくせん。深く感謝の意を表すものであります。当会の発足以来二十五周年を迎えたこの喜びと又今后の地域開発促進の一助となすべくこの碑を建て永く関係者の熱意と努力の成果を顕彰するものであります。

工事概要

延長 五千八百五十米 巾貢 七〇米 床固工  
四十六基 帯工 十二基  
用地関係者五十五名 共有地関係四部落  
事費 約金壱百參拾億圓也



- ▶ 交通案内
  - JR上越線六日町駅下車 南越後観光バス沢口または清水行き 横田新田停留所下車 徒歩10分
  - 国道291号 横新田交差点より滝谷方面へ車で5分
- ▶ 所在地
 

新潟県南魚沼郡塩沢町滝谷地先
- ▶ 水系名及び溪流名
 

信濃川水系魚野川右支登川
- ▶ 問い合わせ先
 

建設省湯沢砂防工事事務所 調査課 電話0257-84-2263



# 激甚災害復旧記念碑



昭和六十二年八月二十九日に発生した集中豪雨は、山形県西田川郡温海町に未曾有の大災害を引き起<sup>こ</sup>こした。山林の崩壊による土石流の発生、住宅の倒壊、河川堤防や道路の決壊、農地の流出など、その被害総額は六十八億円余という甚大なものであった。

被災直後から町民は一丸となり、国や県をはじめ関係機関からの助力をあおぎ、復旧に尽力した。その結果、四年の歳月と百十六億円余の巨費をもつて復旧対策が完了した。同町ではこの災害を後世に伝え、災害に対する心構えを忘れないために、災害に強い町づくりをなしとげたことを記念してこの碑を建立したものである。

碑文

激甚災害復旧記念碑

石誌

温海町長 本間満義

内

昭和六十二年八月二十九日、本町は記録的な集中豪雨による大水害に襲われた。住宅の倒壊、山林の崩壊による土石流の発生、河川堤防、道路の決壊、農地の流出等、被害総額は六十八億円余に達した。

全町民は一丸となり国、県をはじめ多くの人々から指導助力をおぎ、激甚災害対策緊急事業等の実施と併せ四年の歳月と百十六億円余りの巨費をもって復旧し、災害に強い町づくりを果たすことができた。

私達は、この事実を教訓として後世に伝え、再び災害に遭うことのないよう念じてこの碑を建立する。

平成二年十一月 温海町

石誌

昭和六十二年八月二十九日、本町は

記録的な集中豪雨による大水害に襲われた。

住民の倒壊、山林の崩壊による土石

流の発生、河川堤防、道路の決壊、農地の流失等、被災箇所は六十八箇

目余に達した。

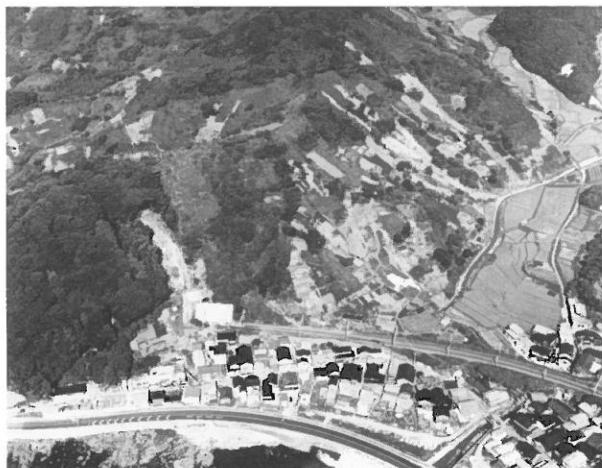
全町民は一丸となり国、県をはじめ多くの人々から指導助力をおぎ、激甚

災害対策緊急事業等の実施と併せ四年の歳月と百十六億円余りの巨費

をもって農田・災害に張り切って取り組んだことができた。

私達は、この事実を教訓として後世に傳えていきたい。

平成二年十一月 温海町



土石流による道路の被災状況



西田川郡温海町

山形県

▶ 交通案内

◎JR羽越本線小岩川駅下車 道の駅「しゃりん」方面 バス1分 徒歩10分

◎国道7号鶴岡より30km 所要時間40分 道の駅「しゃりん」

▶ 所在地

山形県西田川郡温海町大字早田字砥之浦

▶ 水系及び溪流名

五十川水系、温海川水系、小国川水系、早田川水系、鼠ヶ関川水系

その他水系

▶問い合わせ先

山形県砂防課 電話0236-30-2631



2km

## 「はじめに砂防ありき」の碑

平川は、花崗岩・蛇紋岩を中心とした地質のため荒廃が著しく、大雨のたびに土砂が流下し、下流域では河床の上昇を引き起こして氾濫を繰り返し、被害を拡大してきた。特に昭和の初期と三十年代には大きな災害となり、地元住民は苦難に耐えなければならなかつた。

そのため昭和三十七年（一九六二年）に国の直轄事業として、砂防工事が開始され、上流部の砂防ダムの整備が進められた。昭和四十七年（一九七二年）からは流路工にも着手し、以来十九年をかけて、川床の安定、流路の固定、洪水・氾濫の防止のための工事を行った。これは平川流路工第一期計画と呼ばれるもので、平成二年（一九九〇年）に完了した。石碑はその竣工を記念して、平成三年に建立されたものである。



## 碑文

横沢裕書

はじめに砂防あります

(白馬村の歴史をみたとき、絶えず村の発展の前へ前へと砂防事業が行わってきたことを忘れてはいけない」という思いを白馬村前村長横沢裕氏が碑文の言葉に記されました。)

平川流路工 斎藤尚久書

第一期計画竣工記念碑



平川の流域は、花崗岩・蛇紋岩を中心とした地質で構成されており、荒廃が著しく大雨のたびに土砂が流下し、下流の扇状地部で河床の上昇を引き起こして破堤・氾濫を繰り返し、大きな被害を与えてきました。特に昭和三十四年には九月の伊勢湾台風により国鉄(現JR)大糸線及び国道一四八号線の橋梁が土砂に埋る等の災害が発生しました。建設省では、二度どこのような災害を受けることのないよう昭和三十七年度から直轄による砂防ダム工事に着手し、さらに昭和四十七年度より、流路の固定と河床の安定を図るために昭和三十九年余の歳月を経て平成二年度に第一期計画の完成をみるに至ったものであります。そのためこの碑を建立したものです。

平成三年二月吉日  
建設省北陸地方建設局 松本砂防工事事務所



- ▶ 交通案内  
○JR大糸線飯森駅下車 徒歩約4.0km 国道148号平川橋付近より3.0km
- ▶ 所在地  
長野県北安曇郡白馬村北城(源太郎砂防ダム下流左岸)
- ▶ 水系名及び河川名  
姫川水系平川
- ▶ 詳細な地図
- ▶ 問い合わせ先  
建設省松本砂防工事事務所 調査課 電話0263-33-1115



# 砂防の碑

愛知県知事 鈴木礼治書

153  
愛知県

◎建立者／愛知県 ◎建立年／平成三年三月十九日

## 砂防の碑

地質の脆弱な風化花崗岩地帯を流れる愛知県の白川は、流域に数多くの崩壊地と多量の土砂が堆積する河床を持つ荒廃渓流である。この白川から流出する土砂は、たびたび洪水を引き起こし、そのたびに下流域の田畠を埋没させ、また家屋の損壊などの土砂災害をもたらした。ことに昭和四十七年七月の豪雨では土石流が発生し、木瀬地区において十二名の尊い生命を奪う大災害となつた。

愛知県では、土砂災害から流域住民の生命と財産を守るため、藤岡町はじめ関係者の協力を得て昭和六十年度から砂防ダムの建設に着手した。そして平成二年度、県下最大級の規模を誇る白川砂防ダムが完成。これを記念して平成三年三月十九日、石碑を建立したものである。

## 白川砂防ダム建設経緯

白川は、地質脆弱な風化花崗岩地帯を流れ、流域には数多くの崩壊地と多量の土砂が堆積する荒廃渓流である。洪水の度毎に流出する土砂は、下流の田畠を埋没し、家屋の損壊をもたらすこと再々であった。ことに、昭和47年7月の豪雨では土石流が発生し、木瀬地区において12名の尊い生命を奪う大災害となった。

愛知県は、土砂災害から流域住民の生命と財産を守るために、藤岡町はじめ関係者の協力を得て昭和60年度から白川砂防ダムの建設に着手し、平成2年度に完成した。

平成3年3月19日

## 白川砂防ダム概要

事業名	通常砂防事業
ダム形式	コンクリート重力ダム
流域面積	8.111Km <sup>2</sup>
堤高	21.0m
堤長	103.4m
貯砂量	約234千m <sup>3</sup>
工期	昭和60年度～平成2年度
施工者	約10億7千万円
施工者	愛知県・太田共同公会体

## 砂防の碑

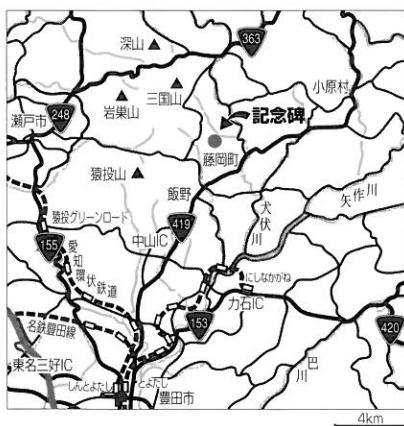
愛知県知事 鈴木礼治 書

## 白川砂防ダム建設経緯

白川は、地質脆弱な風化花崗岩地帯を流れ、流域には数多くの崩壊地と多量の土砂が堆積する荒廃渓流である。洪水の度毎に流出する土砂は、下流の田畠を埋没し、家屋の損壊をもたらすこと再々であった。ことに、昭和47年7月の豪雨では土石流が発生し、木瀬地区において12名の尊い生命を奪う大災害となった。

愛知県では、土砂災害から流域住民の生命と財産を守るために、藤岡町はじめ関係者の協力を得て昭和60年度から白川砂防ダムの建設に着手し、平成2年度に完成した。

平成3年3月19日



## ▶ 交通案内

◎愛知環状鉄道「しんとよた」駅下車 名鉄バス乗換

名古屋鉄道豊田線「とよたし」駅下車 名鉄バス乗換

名鉄バス上仁木行き「木瀬三ヶ口」停留所下車 徒歩約40分 約3km

◎国道419号線藤岡町木瀬三ヶ口交差点より 主要地方道豊田多治見線へ5分

約3km

## ▶ 所在地

愛知県西加茂郡藤岡町大字白川地先

## ▶ 水系名及び渓流名

矢作川水系木瀬川支川白川

## ▶ 問い合わせ先

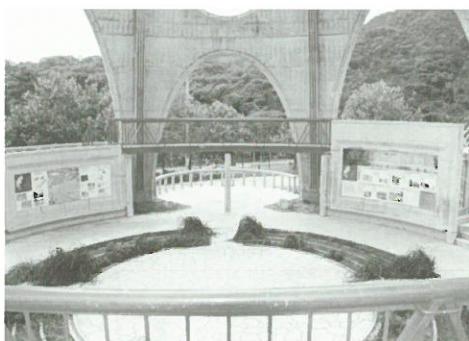
愛知県砂防課 電話052-961-2111



# 砂防のモニュメント

六甲山系は脆弱な花崗岩に覆われており、逆瀬川も大雨のたびに下流の武庫川まで多量の土砂を流出していた。しかしながら明治二十八年（一八九五年）に山腹工事に着手したのを始めに地道な努力を積み重ねた結果、荒廃していた地域は緑を取り戻し、逆瀬川砂漠と呼ばれた川床も安定し、今日では良好な住宅地域となっている。

山腹工事は兵庫県砂防事業の始まりでもあった。以来、百年にわたり、豊かな自然につつまれた、快適で安全な暮らしを守るべく、砂防事業は着実に進められてきた。このモニュメントは、砂防事業の重要性について認識を深め、防災への意識を高める目的で、宝塚ゆずり葉緑地公園に逆瀬川砂防百周年記念として建設されたものである。



## 碑文

### 砂防のモニュメント

六甲山系の表土は、脆弱な花崗岩でおわれています。そのため昔の逆瀬川は、大雨のたびに下流の武庫川まで多量の土砂を派出し、人々の生活に大きな影響を与えてきた暴れ川でした。

兵庫県は、これらの土砂災害を防ぐため明治28年に逆瀬川で砂防事業に着手し、その後県下全域において施工してきました。このモニュメントは、この地が、本県砂防事業発祥の地として、以来100年に亘り、砂防と共に歩んできたことを記念して建設するものであり、六甲山系の山並みや、砂防事業を表現し、21世紀の大きいなる兵庫の基礎づくりに果たす砂防事業の推進の決意を表すものです。

平成3年3月 兵庫県土木部

砂防のモニュメント

六甲山系の表土は、脆弱な花崗岩で覆われています。そのため昔の逆瀬川は、大雨のたびに下流の武庫川まで多量の土砂を派出し、人々の生活に大きな影響を与えてきた暴れ川でした。

兵庫県は、これらの土砂災害を防ぐため明治28年に逆瀬川で砂防事業に着手し、その後県下全域において施工してきました。このモニュメントは、この地が、本県砂防事業発祥の地として、以来100年に亘り、砂防と共に歩んできたことを記念して建設するものであり、六甲山系の山並みや、砂防事業を表現し、21世紀の大きいなる兵庫の基礎づくりに果たす砂防事業の推進の決意を表すものです。

平成3年3月

兵庫県 土木部



### ▶ 交通案内

○ 阪急今津線逆瀬川駅下車 阪急バス(甲山線、逆瀬台線) 宝塚西高校前バス停下車 徒歩5分

### ▶ 所在地

兵庫県宝塚市蔵人(ゆずり葉緑地公園内)

### ▶ 水系名及び渓流名

武庫川水系逆瀬川

### ▶ 問い合わせ先

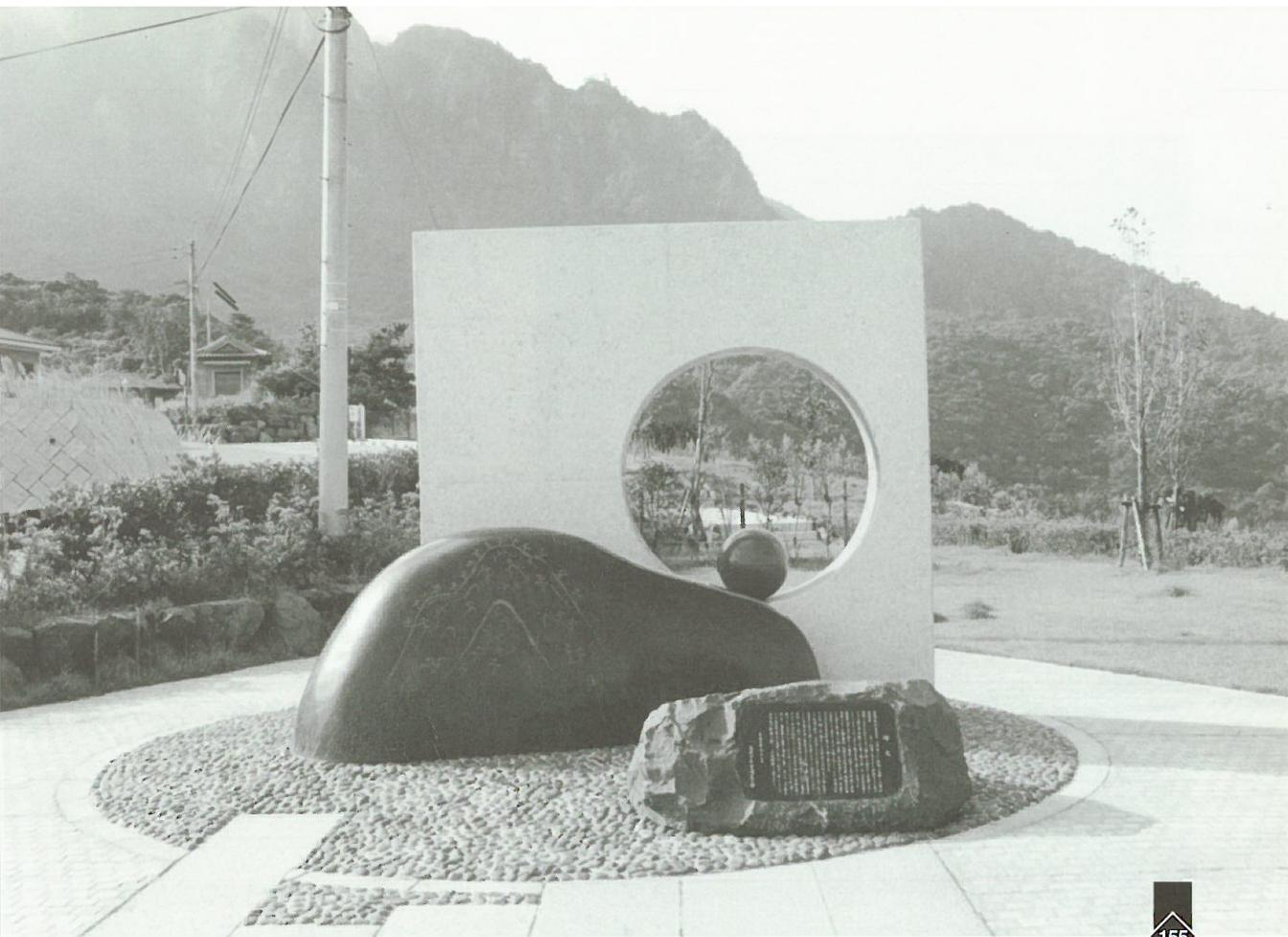
兵庫県砂防課 電話078-341-7711



## 平成二年雲仙普賢岳噴火災害 犠牲者追悼の碑

雲仙普賢岳は、寛政四年（一七九二年）の俗に「島原大変、肥後迷惑」と呼ばれた大噴火から百九十八年ぶりに噴火活動を開始した。平成二年（一九九〇年）十一月十七日より火碎流・土石流をたびたび発生させ、そして翌平成三年六月三日、ついに大火碎流の発生のために、四十三名の命を奪うという悲劇に至ったのである。想像を絶する大火碎流の犠牲となつたのは、消防団員、警察官、外国人火山研究家、報道関係者等、公共的な仕事で現場近くに踏みとどまついた人たちであった。また、続く平成五年六月二十三日の大火碎流でも一名の犠牲者を出した。

この碑は犠牲者への哀悼と、島原市の復興・発展を誓い、厳然たる自然の営みと史実を伝えるために建立されたものである。



## 碑 文

平成二年十一月十七日一九八年ぶりに活動を開始した雲仙普賢岳美しい紅葉に包まれた山頂から一条の煙をたなびかせ、まるで一幅の絵を想わせる光景を呈しながら僅か半年後にふる里を焼き尽くすあの大災害をもたらそうとは、このとき誰が予想し得たであろうか。翌三年六月三日に発生した想像を絶する大火碎流は消防団員をはじめ警察官、外国人火山研究者、報道関係者など四十三名の尊い人命を奪い先祖伝来の山や烟、住み慣れた家屋やふる里まですべてを焼き尽くし、また平成五年六月二十三日の大火碎流でも一命が奪われた。

その後、繰り返し発生した火碎流や土石流、更には降灰等により被害が拡大し、全市的にかつてない大きな損害を受けまさに島原市の存亡を懸けた災害との斗いを余儀なくされた。

ここに市民の生命と財産を守るため身を挺し火山のメカニズム解明に命を懸け、報道の使命に情熱を燃やしながら志半ばに無念の犠牲となられた四十四柱の御魂に哀悼の誠を捧げるとともに、どこしえにやらかなることを祈念し、併せて島原市の復興と發展を誓い、更には、この厳然たる自然の営みと史実を未永く後世に伝えるため、全市民の総意を刻し、この追悼碑を建立する。

平成七年六月三日

島原市町 吉岡庭二郎

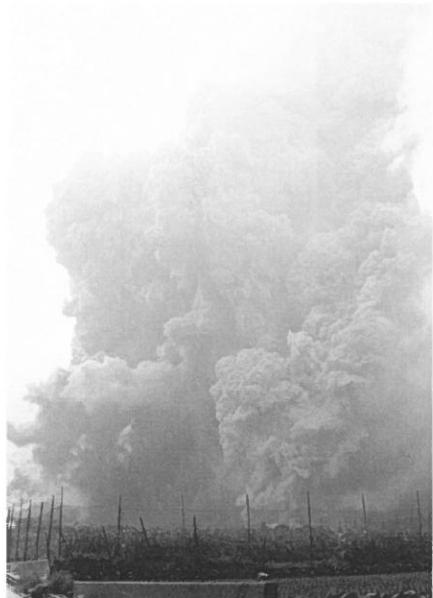
## 碑 文

平成二年十一月十七日一九八年ぶりに活動を開始した雲仙普賢岳美しい紅葉に包まれた山頂から一条の煙をたなびかせ、まるで一幅の絵を想わせる光景を呈しながら僅か半年後にふる里を焼き尽くすあの大災害をもたらそうとは、このとき誰が予想し得たであろうか。翌三年六月三日に発生した想像を絶する大火碎流は消防団員をはじめ警察官、外国人火山研究者、報道関係者など四十三名の尊い人命を奪い先祖伝来の山や烟、住み慣れた家屋やふる里まですべてを焼き尽くし、また平成五年六月二十三日の大火碎流でも一命が奪われた。

その後、繰り返し発生した火碎流や土石流、更には降灰等により被害が拡大し、全市的にかつてない大きな損害を受けまさに島原市の存亡を懸けた災害との斗いを余儀なくされた。

ここに市民の生命と財産を守るため身を挺し火山のメカニズム解明に命を懸け、報道の使命に情熱を燃やしながら志半ばに無念の犠牲となられた四十四柱の御魂に哀悼の誠を捧げるとともに、どこしえにやらかなることを祈念し、併せて島原市の復興と發展を誓い、更には、この厳然たる自然の営みと史実を未永く後世に伝えるため、全市民の総意を刻し、この追悼碑を建立する。

平成七年六月三日  
島原市長吉岡庭二郎



### ▶ 交通案内

○島原鉄道島原外港駅下車 島鉄バス雲仙行き中木場バス停下車 車で約3分

○国道57号 中木場駐在所より2km 車で約2分

### ▶ 所在地

長崎県島原市仁田町仁田団地第一公園内

### ▶ 水系名及び溪流名

水無川、中尾川等

### ▶問い合わせ先

長崎県砂防課 電話0958-20-4788



◎建立者／建設省湯沢砂防工事事務所  
◎建立年／平成三年十月

## 大源太川流路工 竣工記念碑

新潟県の魚野川・大源太川の合流点付近は、それぞれの河川から流出した土砂が造り出した扇状地がぶつかり合う地域で、流路が安定せず、洪水の氾濫原となっていた。

これに対し、湯沢砂防工事事務所によって、昭和四十六年から大源太川流路工事が施工された。

また、流路工の背後のエリアには高速道路やスポーツ施設などが建設され、地域は大きく発展した。「大源太川流路工 竣功記念碑」は、平成三年十月、洪水・土砂の災害から流域を守り、地域の発展の礎となる大源太川流路工工事の竣工を記念し、湯沢砂防工事事務所が建立したものである。



碑文

大源太川流路工  
竣工記念碑  
湯沢町長 村山隆征書



大源太川・魚野川合流点付近  
昭和20年代



大源太川・魚野川合流点付近現況



▶ 交通案内

- ◎ JR上越線越後湯沢駅下車 越後交通バス  
中里または大源太または小坂行き 岩原人口停留所下車 徒歩10分
- ◎ 国道17号 宮林交差点より5km 車で5分

▶ 所在地

新潟県南魚沼郡湯沢町土樽地先

▶ 水系名及び溪流名

信濃川水系魚野川右支大源太川

▶問い合わせ先

建設省湯沢砂防工事事務所 調査課 電話0257-84-2263



# 防災祈願碑



桜島における砂防事業は火山活動のただなかで七千人を超える島民の安全を確保するという重大な使命を帯びている。特に昭和四十七年（一九七二年）以降は、火山活動が活発化、多くの溪流で土石流が頻発し土砂の流出が夥しい。砂防工事は昭和十八年に県によって取り組まれ、昭和五十一年に直轄事業として着手。桜島の特殊性から土石流対策は困難を極めた。石碑の立つ野尻川は最も土石流の発生が多く、砂防事業の重点流域である。碑は大きな溶岩で大地の、もう一つの溶岩で人々の、力強さを表し、その間にある溶岩で大地を引き裂いて現れた桜島の巨大なエネルギーを表現している。砂防事業で赤い溶岩流を緑なす大地に変えていく。その願いを込めて建立されたものである。

## 砂防乃心

一、私達が砂防の歴史を創つてゐるのだ

一、先人の心を活かし溪流の自然にとけ込んだ砂防を工夫せよ

一、住民の日常生活になじんだ砂防を工夫せよ

一、地域おこしの役割を担う砂防を工夫せよ

一、砂防を盛り上げよ

一、既成概念をのり越えて新しい展開に挑戦せよ

平成四年元旦

建設省砂防部長

松下忠洋

## 防災祈願碑建立にあたつて

世界に冠たる火山国日本のなかでも、特に活発な活動を続けていたる火山が桜島です。

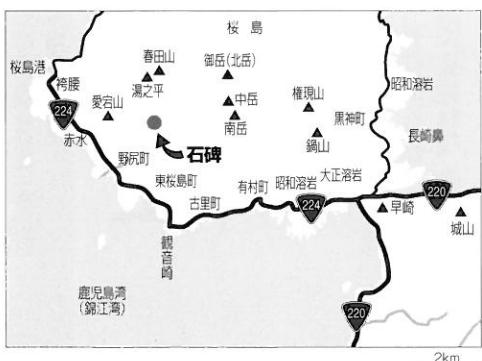
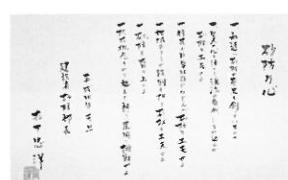
桜島の南岳は、昭和三十一年（一九五五）以来継続的に爆発しています。特に昭和四十七年（一九七二）以降は火山活動が活発となり、島内の多くの溪流で土石流が頻発し土砂流出がおびただしくなりました。

桜島の砂防工事は、昭和十八年（一九四三）から鹿児島県によって行われており、昭和五十一年（一九七六）からは直轄砂防事業として着手されました。

我が國屈指の活動火山桜島の土石流対策は困難を極め、先人の苦労は筆舌に尽くし難いものがあります。ここ野尻川は桜島の中でも最も土石流の発生が多く、重点的に砂防事業を実施している溪流です。

こうした砂防事業の進展と相まって土石流をはじめとする各種災害を根絶し、安全で豊かな桜島となることを祈念してここに防災祈願碑を建立するのです。この防災祈願碑を形づくる大きな溶岩は大地の力強さ、もう一つの溶岩は人々の力強さ、向い合つての力に挟まれた溶岩は突然大地を引き裂いて現れた桜島の巨大なエネルギーの魂を表し、そして、この力強い自然現象を、赤い溶岩流から砂防事業によつて緑の大地へと変わる帶として表現しました。

平成四年三月吉日  
建設省大隅工事事務所長  
亀江幸二



## ▶ 交通案内

◎一般国道224号赤水交差点より3km 車で5分

## ▶ 所在地

鹿児島県鹿児島郡桜島町赤水地先(野尻川5号ダム右岸付近)

## ▶ 水系名及び溪流名

桜島山系野尻川

## ▶ 問い合わせ先

建設省大隅工事事務所 調査課第二課 電話0994-65-2541



# 野麦峠流路工 着工記念碑

昭和五十八年九月二十九日、台風十号とともにこの日は全国的に強い雨となつた。長野県安曇郡奈川村もこの地域としては珍しいほどの激しい雨に見舞われ、時間雨量にして三十八ミリという、それまでに記録されたことのない降雨量となつた。そして午後二時過ぎ、役場付近で土石流が発生したのをきっかけに各所が土石流に襲われた。幸い人的被害は免れたものの、その被害は大きく、一時孤立状態になつた。

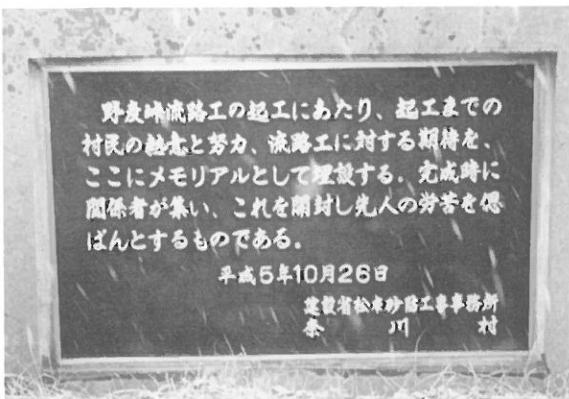
この「奈川災害」を契機に、種々の検討が進められ野麦峠流路工が行われることとなつた。平成六年六月三日、当工事の起工にあたり、起工までの村民の熱意と努力、流路工に対する期待をメモリアルとしてタイムカプセルにして埋設し、石碑を建立したものである。

野麦峠工の起工にあたり、起工までの  
村民の熱意と努力、流路工に対する期待を、  
ここにメモリアルとして記念する。完成時に  
観察者が多い。これを感謝し先人の跡を傳  
ばんとするものである。  
平成五年10月26日  
長野県安曇郡奈川村



## 碑文

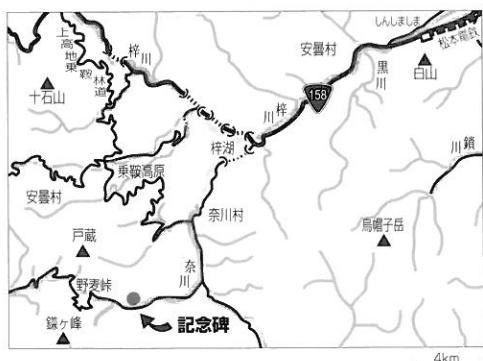
野麦峠流路工の起工にあたり、起工までの村民の熱意と努力、流路工に対する期待を、ここにメモリアルとして埋設する。完成時に関係者が集い、これを開封し先人の労苦を偲ばんとするものである。



昭和58年9月の奈川災害(寄合渡)



床固・流路工等砂防施設が整備された現在の寄合渡  
(野麦峠流路工は左支川(写真では右)延長約5.4kmの区間)



- ▶ 交通案内
  - ◎ 松本電鉄上高地線新島々駅下車 奈川村営バス川浦下車
  - ◎ 国道148号入山トンネル(奈川渡ダム)より15.5km(野麦街道)
- ▶ 所在地  
長野県南安曇郡奈川村川浦
- ▶ 水系名及び溪流名  
信濃川上流水系奈川
- ▶ 問い合わせ先  
建設省松本砂防工事事務所 調査課  
電話0263-33-1115





159

## 鹿児島県

◎建立者／建設省大隅工事事務所  
◎建立年／平成五年十一月三十日

# 有村川災害関連緊急事業竣工碑

鹿児島県の有村川は桜島の南東部に位置し、噴火活動を続ける桜島・南岳火口に最も近いため、流域内への降灰量が多く、土石流の発生回数も野尻川に継いで多い。

平成二年六月八日、二十分間に雨量五十四ミリという豪雨により大規模な土石流が発生し、ダム、流路工の被害が発生した。

これにより、災害関連緊急砂防事業に取り組むこととなり、流路工九百八十一メートル、橋梁四橋、ダム二基、床固一基という大規模な工事を行つた。

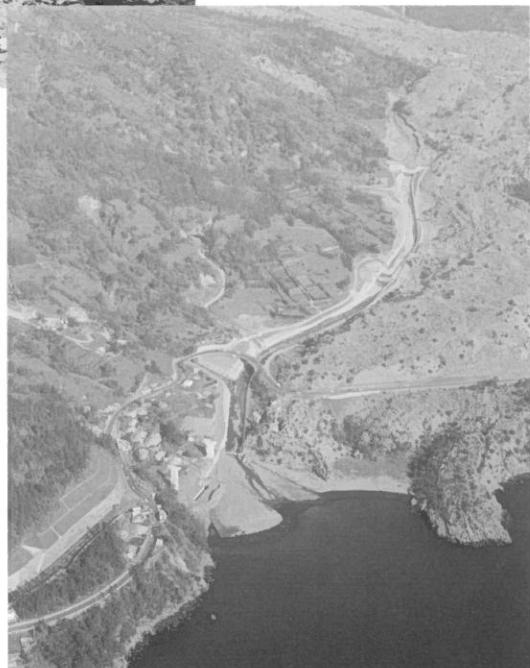
石碑は平成五年十一月三十日、有村川災害関連緊急事業の完成を祝つて大隅工事事務所によつて建立されたものである。

## 碑文

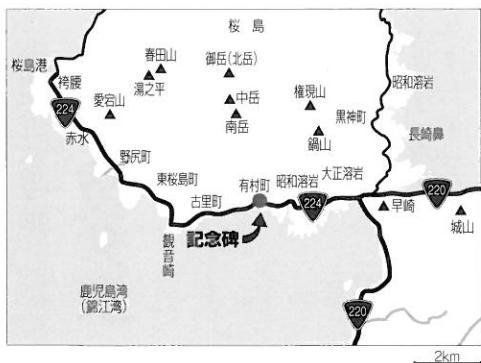
有村川  
災害関連緊急事業  
竣工碑  
平成5年11月30日



被災状況



現況



▶ 交通案内

- ◎JRバス垂水駅行きバス停下車 徒歩3分
- ◎一般国道220号海潟交差点より3km 車で5分

▶ 所在地

鹿児島県鹿児島市有村町有村地先

▶ 水系名及び溪流名

桜島山系有村川

▶問い合わせ先

建設省大隅工事事務所 調査第二課 電話0994-65-2541



# 火打山川第一号砂防ダム 竣工記念碑

昭和四十九年七月二十八日午前一時五十分頃、焼山が二十五年ぶりに爆発。これによつて登山中の学生三名が犠牲となり、大量の火山灰が農作物にも損害を与えた。また、焼山に水源をもつ早川流域では、爆発直後に発生した土石流によつて大量の火山灰が河川や田地に沈積するなどの被害をこうむつた。既存の砂防ダムにも被害が生じ、砂防施設の被害額は六億六千万円余にのぼつた。

そこで爆発による残留土砂を含む恒久的な土砂対策として、昭和五十一年から一号ダムの建設に着手。十八年の歳月と三十八億円余の巨費を投じて平成五年十一月にダムは完成した。犠牲となつた三名の冥福を祈り、この地の安全を祈願して竣工記念碑が建立された。



## 碑文

火打山川第一号砂防ダム  
竣工記念碑  
新潟県知事 平山征夫

裏面

昭和四十九年七月二十八日 午前一時五十分頃、二十五年ぶりに突然爆発した焼山は、登山者三名の尊い人命を犠牲にし、噴出した大量の火山灰は、視界不良による交通渋滞をおこし、農作物にも損害を与えた。

また、焼山に水源をもつ早川流域では、爆発直後より発生した土石流によって、大量に流下した火山灰は、河川や田地に沈積し、魚族を死滅させ、その後も、降雨の多少にかかわらず土石流が発生しつづけ、溪流は荒廃して流域住民の不安を一層大きくした。

この、たびかさなる土石流により、既存の砂防ダム群に大きな被害が生じ、一号ダムも下流の洗掘など大きな被災を受け、これら砂防施設の被災額は、約六億六千万円余りに上った。

この土石流対策として、恒久的な砂防事業の必要が叫ばれ、昭和五十一年度に、通常荒廃砂防事業が計画され災害費(約八千七百万円余り)を合併して、同年七月に資材運搬道路、翌八月より本体に着手し、本事業がスタートした。

その後、平成元年に火山砂防事業として採択され、活火山焼山の総合火山泥流対策基本計画の一環として位置付けられ、工事着手より十八年の歳月と事業費三十八億一千万円余りの巨費を投じて完成した。ここに、第一号砂防ダムの竣工を迎えるにあたり、長期にわたって、事業の推進に御尽力いただいた皆様に感謝申し上げると共に、今後この地域が、火山や、土石流の危険から解放され、安住の地としてさらなる繁栄を期待するものである。

火山砂防火打山川第一号砂防ダム事業の概要

位置 新潟県糸魚川市大字大平シウキダブ地内

事業名 火山砂防事業

河川名 二級河川早川水系火打山川

事業費 約三十八億一千万(内災害費約八千七百万)

施工期間 昭和五十一年～平成五年(十八年間)



第3号砂防ダム床固工前面洗掘状況



第1号砂防ダム現況



### ▶ 交通案内

- ◎JR糸魚川駅下車 路線バス焼山温泉行き 焼山温泉下車 徒歩2時間
- ◎国道8号 早川交差点より18km 車で40分

### ▶ 所在地

新潟県糸魚川市大字大平シウキダブ地内

### ▶ 水系名及び溪流名

早川水系火打山川

### ▶問い合わせ先

新潟県砂防課 電話025-285-5511



# 青森県 砂防發祥の地の碑



赤石川は、世界遺産に登録されている白神山地に源を発し、大小八十余りの支川を合流して、青森県鰺ヶ沢町赤石地区で日本海に注いでいる。流域は白神山地のブナ原生林を始め、V字渓谷の赤石渓谷など、その雄大な自然で知られている。しかし、地質は脆い泥岩が広く分布しており、各所に崩壊地や地すべり等があり、幾度となく氾濫が起きている。最も悲惨な被害は、昭和二十年(一九四五年)の雪泥流で死者十八名を出し、大然部落が全滅した例がある。

青森県では、昭和八年(一九三三年)荒廢の著しい支川の築出沢と鮎石沢に粗石コンクリートの砂防ダムを建設した。これが県における最初の砂防事業であった。「青森県砂防發祥の地」の石碑はこの地から始まつた青森県の砂防の歴史を後世に伝えるため、平成六年に建立したものである。

青森県砂防発祥の地  
青森県知事 北村正哉

碑文  
赤石川は世界遺産に登録(平成五年十二月)された白神山地の山々に源を発し、津軽沢、恩愛沢など、大小八十余の支川を合流した後、鰺ヶ沢町赤石地内で日本海に注ぐ流域面積一七九・九km<sup>2</sup>、流路延長四十四・六kmの二級河川であります。

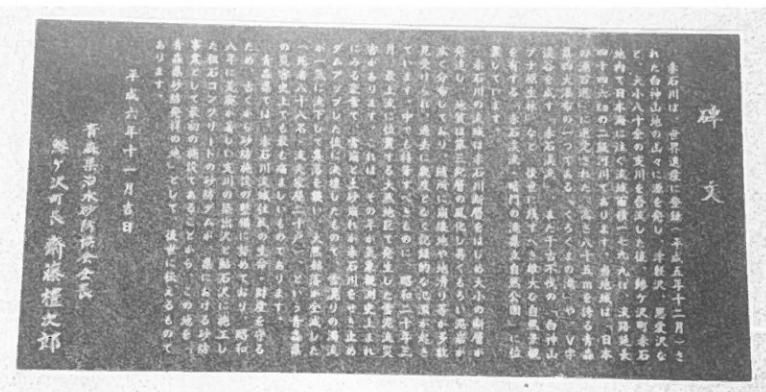
当地域は、「日本の滝百選」に選定された、高さ八十五mを誇る、青森県四大瀑布の一つである「くろくまの滝」やV字渓谷を成す「赤石渓流」、また、千古不伐の「白神山ブナ原生林」など後世に残すべき雄大な自然景観を有する「赤石渓流・暗門の滝県立自然公園」に位置しています。

赤石川の流域は赤石川断層をはじめ大小の断層が発達し、地質は第三紀層の風化し易くもろい泥岩が広く分布しております。随所に崩壊地や地すべり等が多数見受けられ、過去に幾度となく記録的な氾濫が起きています。中でも特筆すべきものに昭和二十年三月、最上流に位置する大然地区で発生した雪泥流災害があります。これは、その年が気象観測史上まれにみる豪雪で雪崩と土砂崩れが赤石川をせき止め、ダムアップした後に決壊したもので、雪混じりの濁流が一気に流下して集落を襲い、自然部落が全滅した(死者八十八名・流失家屋二十戸)という青森県の災害史上で最も痛ましいものであります。

青森県では、赤石川流域住民の生命・財産を守るために、古くから砂防施設の整備に努めており、昭和八年荒廃が著しい支川の築出沢と鮎石沢に施工した粗石コンクリートの砂防ダムは、県における砂防事業として最初の施設であることがあります。

青森県治水砂防協会会长  
鰺ヶ沢町長 斎藤 禮次郎

平成六年十一月吉日



#### ■交通案内

◎JR五能線陸奥赤石駅下車 タクシー30分

◎国道101号県道交差点より20km 車で約30分

#### ■所在地

青森県西津軽郡鰺ヶ沢町一ツ森町西赤石山国有林

#### ■水系及び溪流名

赤石川水系赤石川

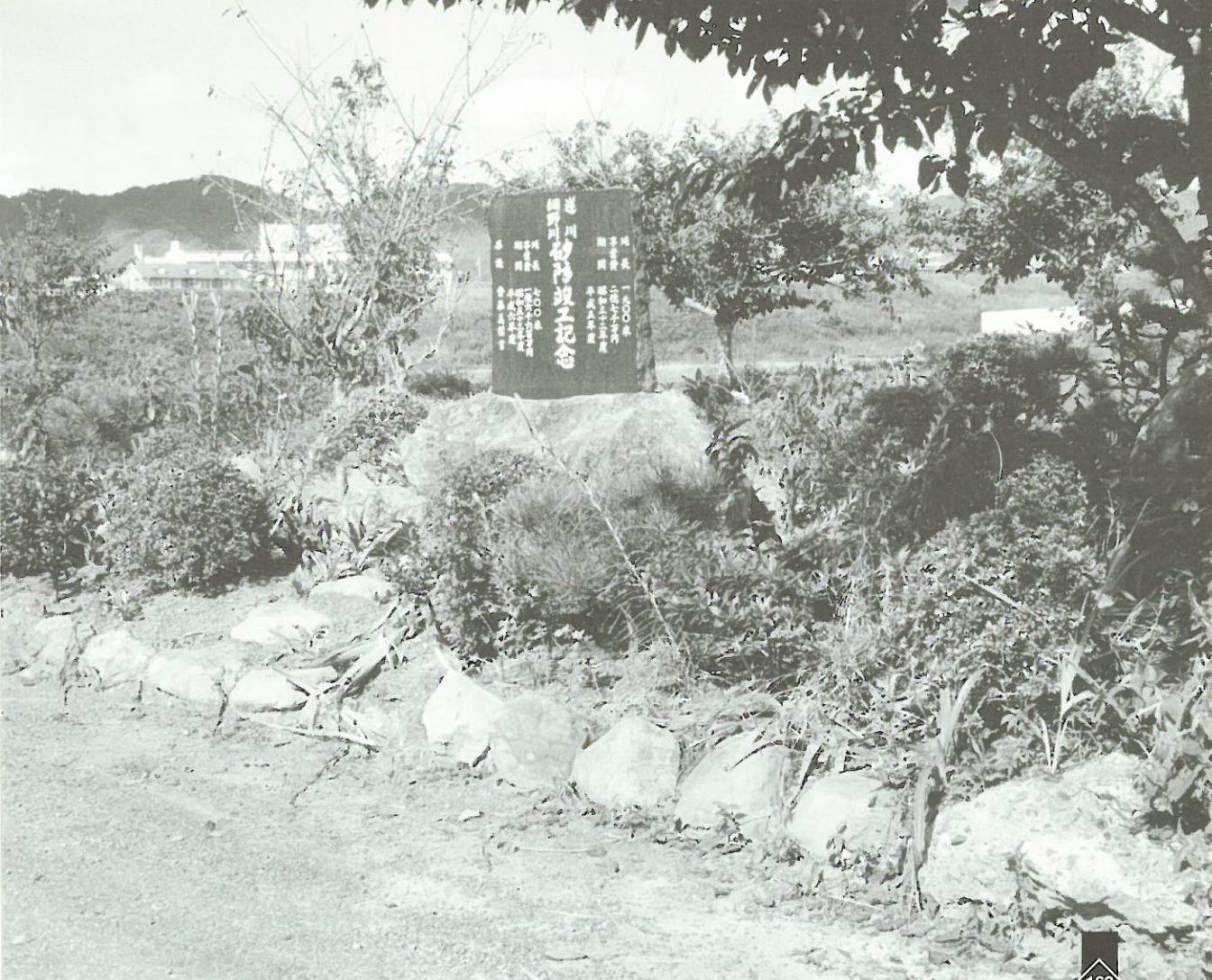
#### ■問い合わせ先

青森県砂防課 電話0177-22-1111



# 逆川・細野川 砂防竣工記念碑

千葉県の南部鴨川市の逆川・細野川は河床勾配が急で川幅も狭く、蛇行も甚だしいため、大雨のたびに氾濫を繰り返してきた。そしてその都度、住宅の床下浸水や耕地の冠水など、幾多の被害をこうむってきた。そこで流域住民は昭和三十二年に一刻も早く砂防事業の着手ならびに推進が図れるよう逆川期成同盟を創立させたところ、その年に事業は着手されるに至った。以来平成六年度まで三十八年の長きにわたって事業は実施され、悲願の河川整備は完了した。そこで平成七年三月一日、関係者への感謝の意もあわせ、記念として碑を建立したものである。現在、河川沿いに桜などの花木が植樹され、草刈りも地元の人によつて行われるなど、愛される川として、また憩いの場として、地域住民に広く親しまれている。



**碑文**

延長	一九〇〇米
事業費	二億七千万円
期間	昭和三十二年度
期間	平成五年度

逆川  
細野川  
砂防竣工記念

延長 七〇〇米  
事業費 一億六千六百万円  
期間 昭和五十三年度  
期間 平成六年度

県議 齋藤美信書



細野川下流  
在来樹及び桜の植生と流路工



▶ 交通案内

◎JR外房線鴨川駅下車 日東バス平塚行き バス停吉尾公民館前下車 徒歩5分

▶ 所在地

千葉県鴨川市松尾寺地先

▶ 水系及び溪流名

加茂川水系逆川

▶問い合わせ先

千葉県河川海岸課 電話043-223-3152



# 砂防で創る安全で 豊かな地域の碑

平成五年六月から九月にかけ、鹿児島では梅雨前線や台風により記録的な集中豪雨となり、県内各地でがけ崩れなどが相次ぎ、甚大な被害をこうむつた。姶良町触田地区でも八月一日の集中豪雨により、姶良二ニータウン西側のしらす斜面が高さ約四十メートル、長さ一、五キロメートルにわたりて崩壊、多量の土砂や倒木が流出して下流域の人家や耕地などに多大の被害を与えた。

県では次期降雨により新たな崩壊や土砂流出の恐れがあつたため、災害関連緊急砂防事業により山腹崩壊の抑制、不安定土砂の制御、洪水の氾濫防止のための対策工事を行った。

当石碑はこの事業の完成を記念し、平成七年八月に建立されたものである。



鹿児島県  
土塁防護監修

砂防で創る安全で豊かな地域

鹿児島県  
土塁防護監修

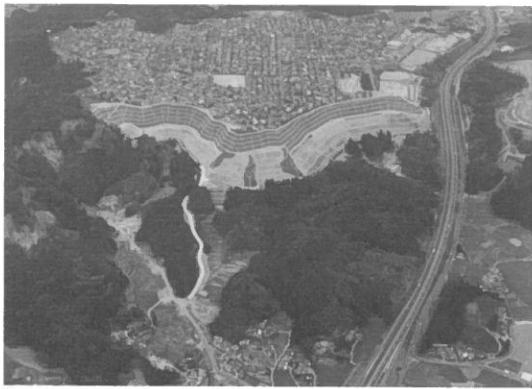
## 碑文

表面  
砂防で創る

安全で豊かな地域



被災状況



現況

鹿児島県知事　土屋佳照書

裏面

平成五年、県本土は六月から九月にかけて梅雨前線や台風等による大雨に見舞われた。

降雨量は六月から八月までの三ヶ月間だけで年平均降雨量の一・二〇〇ミリを突破し、鹿児島気象台の年間降雨量は四、〇二二・三リとなり観測史上第一位の記録となつた。

これらの降雨により県内各地でがけ崩れなどが相次ぎ、甚大な被害が発生した。姶良町触田地区でも八月一日の集中豪雨により、姶良ニュータウンの西側しらす斜面が高さ約四十m、長さ一・五kmにわたり大崩壊し、土砂・倒木により下流の耕地や人家に多大の被害をもたらした。下流域への被害の拡大を防止するための復旧工事は、建設省をはじめ関係機関等の支援のもと、事業費約二十三億円の災害関連緊急砂防事業として採択され、地元住民等の協力を得て、鋭意工事の進捗に努め完成の運びとなつた。

また、この工事によつて生じた約六ヘクタールの安全なスペースは、今後緑の砂防公園「サボーランドパーク姶良」として、周辺住民の憩いの広場として、活用される。

ここに土砂災害の悲惨さの記憶を新たにするとともに、土砂災害を根絶やし安全で豊かな地域づくりを祈念して、復旧の記念碑を建立する。

平成七年八月　鹿児島県

### ▶ 交通案内

- ◎JR日豊本線　帖佐駅から車で約10分
- ◎JR日豊本線　重富駅から車で約15分
- ◎九州自動車道　姶良インターから車で約5分

### ▶ 所在地

鹿児島県姶良郡姶良町触田地先

### ▶問い合わせ先

鹿児島県砂防課　電話099-286-2111



# 平成6年度 全建賞受賞記念碑

岩坪谷は、活火山の焼岳を水源とする神通川水系平湯川の右支川で、下流に新平湯温泉街が発展している。岩坪谷は土石流を発生しやすい危険渓流のため、活火山対策及び土石流対策を目的にした日影第一号上流砂防ダムが、九年の歳月をかけて建設された。砂防ダムとしては我が国初のRCID工法による施工を実施した他、スリット型式の採用、巨石積みバイパス式魚道の設置等の新しい試みが評価され、平成6年度の「全建賞」を受賞した。

特にRCID工法は、多目的ダム建設用に開発された工法であり、それを砂防ダム用に工夫し、汎用性の高いものにしたことに意義があった。石碑はこの受賞を記念して、神通川水系砂防工事事務所によつて建てられたものである。



## 碑文

平成6年度全建賞受賞記念

### 我が国初のRCRD工法施工

日影第1号上流砂防ダムは、砂防ダムとしては我が国初のRCRD工法により施工した砂防ダムである。RCRD工法は、多目的ダムにおいて独自に開発された工法であり、超硬練りコンクリートを振動ローラーで締め固めることを基本としたダム合理化施工法である。この工法を、規模の小さい砂防ダムにより汎用性のある工法としていくために、検討委員会を設置して砂防ダムに適した施工機械等の開発を行った。

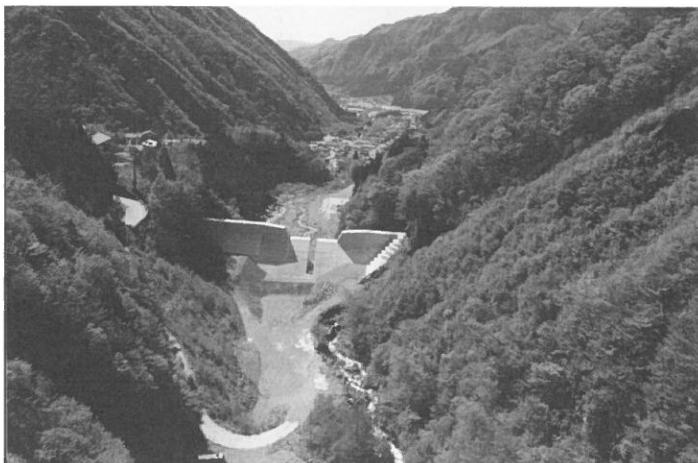
建設事業の中から特に優秀なもの表彰する制度である。この砂防事業としては新たな試みが高く評価され、平成6年度全建賞を受賞した。

(平成7年6月28日受賞)

神通川水系砂防工事事務所



日影第1号上流砂防ダム



上游側から望む



#### ▶ 交通案内

◎JR高山線高山駅下車 農飛バス新穂高温泉行き一重ヶ根公民館前バス停下車  
徒歩約10分

◎国道158号高山より44.5km 車で約1時間

#### ▶ 所在地

岐阜県吉城郡上宝村一重ヶ根地先

#### ▶ 水系名及び溪流名

神通川水系平湯川右支岩坪谷

#### ▶ 問い合わせ先

建設省神通川水系砂防工事事務所 調査課  
電話0578-2-1220





165

群馬県

◎ 建立者 / 建設省利根川水系砂防工事事務所  
◎ 建立年 / 平成七年十一月

## 「甦える大地」「美しい故郷」の碑

群馬県鬼石町の譲原地域は利根川の支流・神流川の中流部にあり、馬蹄形の緩傾斜で典型的な地すべり地形である。同地域では明治四十三年より地すべり活動が始まり、住民の脅威になっていた。この活動が活発化すると下流域にも大きな影響をおよぼす恐れがあることから、昭和三十九年より県の対策工事が開始された。

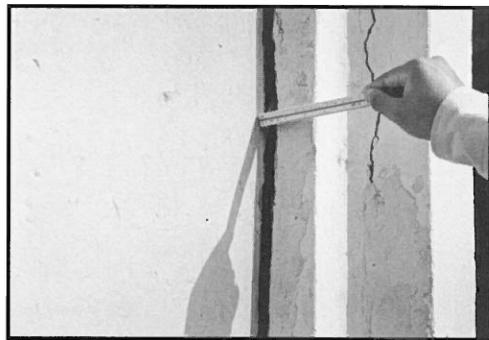
しかし平成三年の台風による大雨で地すべり活動が再発、さらに翌年八月の集中豪雨で移動が活発化した。これにより災害関連緊急地すべり対策事業による対策工事が実施されたが、抜本的対策には至らなかつたため平成七年度より国直轄の地すべり対策事業が開始された。石碑はこの直轄化の記念と今後の安全を祈念して平成七年十一月に建立されたものである。

「甦える大地」、「美しい故郷」

鬼石町長 関口茂樹書



地すべりを横断する農道にみられる亀裂



土蔵の入り口に幅3cm程度



地すべりによる土蔵の破損箇所



▶交通案内

◎JR八高線群馬藤岡駅下車 上信バスにて万場乗換砥根平行き  
柏ヶ舞下車 徒歩約3分

◎国道462号鬼石町体験学習館「マグ」より2km 車で約5分

▶所在地

群馬県多野郡鬼石町

▶水系名及び溪流名

利根川水系神流川

▶問い合わせ先

建設省利根川水系砂防工事事務所 調査課 電話0279-22-4179

# 砂防ダム銘板

高知県は砂防事業の重要性や防災意識の高揚のため、平成六年度より将来を担う地元小学生を対象に県下の代表的な箇所で「砂防ダム銘板設置式」を開催している。

本銘板は平成七年度に完成した土佐清水市・東平山谷川の砂防ダムのもので、平成八年一月二十三日に設置された。碑文は「砂防ダム銘板設置式」に招待された同市立立石小学校の六年生・池田浩明君が書いたもの。同小学校は開校百年目を迎えた平成七年度をもつて過疎化などの影響により休校となつた。開校百年の思い出と、児童たちの「立石地区を土砂災害から百年先まで守りたい」という願いを込め「立石百年ダム」と命名され、さらにお校生五名の手形が堤体全面の身長に合わせた位置に取り付けられた。

## 式設置銘版

立石百年ダム  
銘版設置式  
新築落成記念  
上杉利則  
立石小学校

一九八八年一月  
贈  
新築落成記念  
上杉利則





## 碑文

立石百年ダム

H=9・50M L=67・70M

平成7年度

高知県防災砂防課

立石小学校開校百年記念





## 鹿児島県

◎建立者／日吉町(繩野喜三郎他一同)  
◎建立年／平成八年三月二十五日

# 毘沙門地区 地すべり災害記念碑

平成五年六月から九月にかけて、鹿児島県に降った総雨量は二千二百ミリ余りと、平年の二倍を記録した。この豪雨により九月二十日十九時五十分頃、日置郡日吉町毘沙門地区の山腹で幅約百メートルにわたりて地すべりが生じ、人家を倒壊して住民五名を巻き込み、うち二名が死亡するという大規模地すべり災害が発生した。

その後、現場上部斜面で大きな亀裂が発見され、被害の拡大が懸念された。このため山腹の安定を目的とした地すべり防止工事が行われ、平成七年三月に完成した。石碑は今後このような災害が起らぬことを祈念し、平成八年三月に建立されたものである。

毘沙門地区地すべり災害記念碑

## 碑文

碑文

緑豊かな日吉町毘沙門地区矢筈岳西側山腹において、平成五年九月二十日幅約一〇〇mの斜面崩壊が発生し、人家を倒壊して住民五名を巻き込み、うち二名が死亡するという、大規模地すべり災害が起こりました。

この地すべり災害は、流失した土砂の量・範囲とも国内においては最大のもので、その後も上部斜面に大きな亀裂が発見され、今後も地すべりの滑動により前回より大規模な地すべり災害が発生することが予想されたため、災害関連緊急地すべり対策事業により、山腹の安定を目的とした地すべり防止工事を施工し、平成七年三月完成しました。

その跡地を、地域の国土保全施設及び地域発展の為の砂防公園として活用することとなり、今後、再びこのような災害が起ころぬことと、災害によって命を落とされた方の冥福を祈念して、この碑を建立いたしました。

平成八年三月吉日 日吉町

碑文  
記録  
平成八年三月吉日 日吉町



被害状況



現状



### ▶交通案内

○JR鹿児島本線伊集院駅下車 鹿児島交通バス加世田行き上日置バス停下車  
徒歩5分

### ▶所在地

鹿児島県日置郡日吉町毘沙門地先

### ▶水系名及び溪流名

大川水系毘沙門地区

### ▶問い合わせ先

鹿児島県砂防課 電話099-286-2111



# 直轄砂防六十周年記念碑



昭和七年八月二十六日、中津川市は四ツ目川災害に見舞われ、死傷者二十人、家屋の流出・倒壊四〇〇戸以上、鉄道や橋梁が流出し、田畠が全滅して、その年の収穫がすべてなくなるという壊滅的な被害を受けた。(90ページ参照)

この災害を一つの契機として、五年後の昭和十二年五月、多治見工事事務所の前身である内務省名古屋土木事務所中津川工場、土岐川工場が設置され、木曽川及び庄内川流域における直轄砂防工事が始まった。

平成九年八月に直轄砂防六十周年を記念して建立された石碑は昭和七年の土石流で流出してきた一〇〇トン近い巨石を使用し、松下忠洋代議士の書による「地平天成」の四文字が刻まれている。

石碑の脇には工事記録や災害資料、地元の小学六年生児童の作文などが封入されたタイムカプセルが埋設されている。

## 碑文

裏面

地平天成

建設省多治見工事事務所

六十周年記念

平成九年八月二十六日

衆議院議員

松下 忠洋 書



## タイムカプセル碑文

### 二十世紀へのメッセージ

昭和七年八月二十六日、中津川地域は四ツ目川からの土石流により、未曾有の大災害を被りました。地域の復興と、安全で住み良い街づくりを目指して昭和十二年より国直轄の砂防事業が始まられ、本年で六十周年を迎えました。

これを記念し、四ツ目遊砂工事を着工するにあたり砂防の願いを込めて記念碑を建立致しました。

碑石は土石流でこの地に流れ出して来た巨石を使用しました。

「地平らかに天成る」の文字は中国の古典「書經」の語源「大禹謨」に記されているもので、元号「平成」の語源となったものです。

地域が平穏で栄える様にという歴代在職職員のこれまでの思いを虎渢会会長に書いて頂きました。

また、これまでの災害資料、工事記録、及び地域の現況などを後世に伝えるため、タイムカプセルをこの地に埋設しました。

防災と地域繁榮の願いを込めて

平成九年八月二十六日

建設省多治見工事事務所

所長 堀内成郎



### 交通案内

◎JR中央線中津川駅下車 北恵那バス西回りまたは東回り松恵線  
恵下橋バス停下車徒歩15分 中津川駅より車で10分

◎国道19号線実戸進入路(四ツ目川沿い)より2.5km

### 所在地

岐阜県中津川市恵下地先

### 水系名及び溪流名

木曾川水系中津川支川四ツ目川

### 問い合わせ先

建設省多治見工事事務所 砂防調査課

電話0572-25-8024



# ローム斜面崩壊実験事故 慰靈碑

ローム斜面崩壊実験事故慰靈

科学技術庁、建設省、消防庁、通産省により昭和四十四年から、「ローム台地におけるがけ崩れの研究」が三ヶ年計画で実施された。その背景には昭和四十一年の神奈川県下におけるがけ崩れ災害や、翌年の六甲や呉市などで土砂災害が相次いだことがある。

人工降雨により関東ローム層のがけ崩れのメカニズムを調べるための現地実験が「川崎市生田緑地」で行われた。昭和四十六年十一月十一日午後三時三十分頃、実験斜面（長さ七十メートル、幅二十五メートル、標高差二十五メートル）に崩壊が起り、斜面の下にあつた崩土流出防護柵の下にいた報道関係者や実験班員等十五名が死亡、十一名が負傷した。

慰靈碑は昭和四十七年十一月、科学技術庁と川崎市により建立されたものである。

崩壊があつた現場は、今は土砂がえぐつた斜面を植生が覆い、現場周辺は雑木林が静かなたたずまいをみせ、多摩丘陵の自然の中で当時とほとんど姿を変えていない。



碑文

表面  
鎮

川崎市長 伊藤三郎

裏面  
昭和47年11月

科学技術省  
川崎市

裏面

口一ム斜面崩壊実験事故慰靈

昭和四十六年十一月十一日 川崎市



▶ 交通案内

◎ 小田急電鉄「向ヶ丘遊園」駅下車 徒歩15分「生田緑地」内

▶ 所在地

神奈川県川崎市多摩区楓形7丁目地内

▶問い合わせ先

神奈川県 砂防課

電話045-201-1111



# 砂防法100年の歩み

出典：(社)全国治水砂防協会編「日本砂防史」

西暦	年号	砂防の歩み	主な災害(※組織・体制・海外技術協力)
六七七	天武天皇五	天武天皇が勅令を出して南淵山・細川山(岐阜)の伐採を禁じた(保護林の起源)	
七〇一	大宝一	「大宝律令」制定(治水課役の制度が確立)	
六八五・七〇八	天武天皇二三・和銅一	三瓶山(島根)・立山(富山)・白山(石川)・桜島(鹿児島)噴火・爆発	
七二〇	和銅三	伐木を禁じ「守山戸」を置き山地保護始まる	
七八一	天応一		
七八六	延暦一〇		
八〇六・八二一	大同一・弘仁二二	河岸の林木伐採禁止令(水源涵養・土砂扞止のため)	
一二三七	安貞一		
一二三一	元弘一		
一五四一	天文一一		
一六〇三	慶長八		
一六五〇	慶安三	「加藤清正」が白川(熊本市)の土砂対策のため堅固な石で巻立堤を築造した 「熊沢藩山」備前藩主池田光政に治山・治水の必要性を説く(岡山)	
一六六〇	万治三	幕府は山城・大和・伊賀・三ヶ国に対し、木根掘取禁止・苗木植付・土砂留を命ずる(三重・京都・奈良)	
一六六六	寛文六		
一六八三	天和三	「河村瑞軒」撰著・河内の河川流域を観察、山林の造成等治水策を建議(滋賀・京都・大阪)	
一六八四	貞享一	京都町奉行所に「土砂留奉行」が置かれる(京都)	
一六八七		幕府により大和川・淀川流域に土砂留工事始まる(砂防工事の初め)	
一七〇〇	元禄二三	「治水普請役」を設置し、笠置から下流の木津川・宇治川・淀川の区域を町奉行に管理させ「土砂方」による水源地方の巡視を行う(三重・京都・奈良)	
一七〇七	宝永四	福山藩で砂留工事を開始(広島)	
一七一五	正徳五		
一七八二	天明二	揖津・河内両国に土砂留工事七百三十一箇所施工(大阪)	
一七八三	天明三	水野陣屋(代官所・瀬戸市)は「山方係」を定め砂防植樹の制度を開設(愛知)	
一七九二	寛政四		
一八五八	安政五		
一八六八	明治一	富士山宝永の大噴火	
一八六九	明治二	富士山宝永の大噴火	
一八七一	明治四	政府は農務官に「治河使」を設置	
一八七二	明治五	政府は農務官に「治河使」を設置し同官内に「土木司」を置く。政府は治水上土砂留の調査に着手	
一八七三	明治六	畿内および伊賀国に「砂防五ヵ条」を布達(三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良) 瀬田川・野洲川の流域で砂防工事に着手、一ヵ年で工費金二万円也(滋賀) 「淀川水源砂防法」を定め大蔵省より京都・大阪・奈良・堺・滋賀・三重の府四県に通達:砂防法の基礎	(46頁)

( 頁 ) は本書掲載頁